

英語塾 GRIT

Institute of Academic English

大学入試対策総合英語

思考と統合

Curriculum Guide ・ D → C → B → A ・ 96 Lessons

学びの設計図。



ABOUT THIS CURRICULUM

この教材が目指すもの

英語を「訳す」だけでなく、構造を捉え、関係を結び、意味を読み、概念と論証を組み直す。
その力を96Lesson で段階的に育てます。

D → C → B → A		この群を終えると
D	構造 Structure	英文の骨格を自力でほどこき、 意味構造を保って自然な日本語・英語へ組み直せる。
C	関係 Relation	複数情報の関係を読み、 条件・根拠・限界を保ったまま判断を説明できる。
B	解釈 Interpretation	事実・視点・含意を分け、 相手や文脈に応じた意味を根拠付きで再構成できる。
A	概念 Concept	概念・前提・論理・価値判断を壊さず、 別の言語で再構築し、初見の議論へ応用できる。

一つの能力を、別の形式へ

和訳・英訳・長文は、別々の科目ではありません。和訳で気づいた考え方を、英訳で自分の言葉にし、
長文で別の題材へ広げます。Lesson が進むたびに、新しい条件や視点が加わります。

和訳 気づく	→	英訳 自分の言葉にする	→	長文 別の題材へ広げる
--------	---	-------------	---	-------------

最終目標は、初めて読む英文でも「何を考えればよいか」を自分で選べることです。

前の Lesson で手に入れたものを、次の Lesson で使う

各 Lesson には「使うもの」の欄があり、
前の Lesson で手に入れた考え方が、
その課でどう必要になるかを示します。

例 使うもの **D01** 主体・動作・対象（時間の軸を足す土台）

各部の終わりには「ここまでで手に入れたもの」の
一覧を置き、6、12、18、24 と増えていく道具と、
それを次に使う場所を示します。

6 / 24

12 / 24

18 / 24

24 / 24

HOW TO LEARN

1 Lesson の学び方

同じ思考を、理解 → 再構築 → 転移の順に動かします。

01	和訳① 気づく	新しい構造・関係・視点・概念に出会う。
02	和訳② 確かめる	表現や場面が変わっても、同じ考え方を使えるか確かめる。
03	英訳 表す	理解した意味構造を、自分で英語として組み立てる。
04	長文 広げる	複数段落・別題材の中で、同じ思考を自力で見つける。
05	次 Lesson つなぐ	前の思考を残したまま、新しい条件や視点を加える。

問題数の基本

D群	C群	B群	A群
和訳 4 / 英訳 6 / 長文 5	和訳 4 / 英訳 6 / 長文 5	和訳 6 / 英訳 9 / 長文 3	和訳 6 / 英訳 6 / 長文 3

長文の最後の 1 題

D・C 群の 5 題目（統合転移）、B 群の 3 題目（統合的解釈）、A 群の 3 題目（論証の統合）は、その課の思考と、前の課の思考を組み合わせで読みます。各 Lesson の下段に、その組み合わせを示しています。

D → A 全体の見取り図

各群 24Lesson は、6Lesson ずつ 4 部に分かれます。第 4 部の出口が、次の群の第 1 部への入口です。

群	第 1 部 L01-06	第 2 部 L07-12	第 3 部 L13-18	第 4 部 L19-24
D / 構造	文の骨格・時間・名詞の説明 核を見つける	関係と範囲 核の範囲を確かめる	接続・条件・仮定 核に条件を与える	倒置と総合 全体へ戻す
C / 関係	観察と根拠 観察を交差させる	条件と実行可能性 条件を交差させる	制約下の調整 利害を交差させる	根拠ある判断と正当化 交差を判断へ束ねる
B / 解釈	場面・行為・条件 事実と意味を結ぶ	受け止めと判断の根拠 視点と受け止めを結ぶ	判断と応答の修正 新しい証拠で結び直す	他者と時間への応答 結びを応答へ変える
A / 概念	記録と制度 概念の糸を取る	認識と自己 自己と認識を織る	医療と規範 規範と価値を織る	言葉と真理 言葉と真理を織り成す

どの群から始めるか

志望校の群から始めます。群を一つ上がるごとに、前の群の出口がそのまま入口になります。迷ったときは、一つ下の群の第 4 部を試してから決めます。

群	対応する大学	この群を終えると（次の群の入口）
D / 構造	地方国公立大・近畿大・学習院大	入る前に：文型・時制などの基本文法を、ひととおり学んでいる。 英文の骨格を自力でほどき、意味構造を保って自然な日本語・英語へ組み直せる。 ↓ C 群に入る前に
C / 関係	旧六医大・神戸市外国語大・北九州市立大・名古屋市立大・関関同立・MARCH	複数情報の関係を読み、条件・根拠・限界を保ったまま判断を説明できる。 ↓ B 群に入る前に
B / 解釈	北海道大・東北大・名古屋大・九州大・筑波大・神戸大・広島大・大阪公立大・旧六医大上位・医科大学	事実・視点・含意を分け、相手や文脈に応じた意味を根拠付きで再構成できる。 ↓ A 群に入る前に
A / 概念	東京大・京都大・大阪大・一橋大・早稲田大・慶應大・和歌山県立医科大学・京都府立医科大学	概念・前提・論理・価値判断を壊さず、別の言語で再構築し、初見の議論へ応用できる。

旧六医大：千葉大・新潟大・金沢大・岡山大・長崎大・熊本大の医学部。大学名は志望校を考えるための目安で、長文の出典を示すものではありません。

CONTENTS & NOTE

この冊子の読み方

● D 群 / Structure p.7 - 24	● C 群 / Relation p.25 - 42
● B 群 / Interpretation p.43 - 60	● A 群 / Concept p.61 - 78
学びの出口 p.79	裏表紙 p.80

長文欄について

各 Lesson の「長文で」には、思考を別題材へ広げるための長文素材・大学入試問題の接続例を示しています。実際の掲載問題は版の更新に伴って変更されることがありますが、Lesson の中心思考と接続原理は維持します。

各 Lesson の下段にある「統合転移」（B 群は「統合的解釈」、A 群は「論証の統合」）は、最後の 1 題が、その課の思考と前の課の思考を組み合わせる読む回であることを示します。

C 群・B 群の ♪ は再読（前に読んだ文章を、その課の視点で読み直す回）、C 群の ♪ は同じ課で二つの文章を読み比べる回です。C-R・B-R・D-R・E-L は、思考と英文読解 C・B・D と EIKEN Bridge の番号です。

この冊子で見べきこと

① Lesson の「考えること」 その課で何を区別し、何を結びつけるのか。	② 使うもの 前の Lesson で手に入れた考え方が、この課でどう必要になるか。
③ 和訳 → 英訳 読むときの思考を、自分で英語に組み直せるか。	④ 長文で 別の題材でも同じ思考を使えるか。最後の 1 題は前の課と組み合わせる。
⑤ 次へ 前の学びが次 Lesson でどう深まるか。	⑥ ここまでで手に入れたもの 各部の終わりに、増えていく道具の一覧と、それを次に使う場所。

春 / 梵
D GROUP

STRUCTURE

構造 - 核を見つける

中心の問い

誰が、何を、いつ、どの状態でしているのか。

まだ分かれきらない全体から、文の核と輪郭を見つける。

対応する大学 地方国公立大・近畿大・学習院大	入る前に 文型・時制などの基本文法を、ひととおり学んでいる。	この群を終えると 英文の骨格を自力でほどこき、意味構造を保って自然な日本語・英語へ組み直せる。
---	--	---

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます（p.12、16、20、24）。

第1部 文の骨格・時間・名詞の説明 核を見つける	第2部 関係と範囲 核の範囲を確かめる	第3部 接続・条件・仮定 核に条件を与える	第4部 倒置と総合 全体へ戻す
--	---	---	---

STRUCTURE

D 群の見取り図

24Lesson を 4 部に分け、核を見つける力を段階的に育てます。

第 1 部 L01-L06 文の骨格・時間・名詞の説明 核を見つける 主体・時間・受け渡し・目的・修飾・場所を正確に取り、文の骨格を一つの場面として捉える。 D01 夜明けの船倉 D02 パンの出発時刻 D03 冷たい荷物のリレー D04 空箱の帰り道 D05 港に並ぶ同じ箱 D06 二つの町の正午 まとめ：p.12	第 2 部 L07-L12 関係と範囲 核の範囲を確かめる 観察範囲、役割、比較、既知/未知、否定、必要条件へ進み、「どこまで言えるか」を制御する。 D07 海底を渡る声 D08 仕分け台の向こう D09 一枚ずつ動き出す D10 雨音をつくる部屋 D11 見えない街の裏側 D12 細い棒の先の役者 まとめ：p.16
第 3 部 L13-L18 接続・条件・仮定 核に条件を与える 因果・条件・譲歩・証拠の射程・仮説・反実仮想を結び、文と文の論理を扱う。 D13 水路の分かれ道 D14 水門を開く条件 D15 屋根に降る雨 D16 ゆっくり沈む粒 D17 風だけで進む船 D18 折り畳まれた家 まとめ：p.20	第 4 部 L19-L24 倒置と総合 全体へ戻す 成立時点・連鎖・空間・条件変化・部分/全体を統合し、複数主体・時点・条件を一つに戻す。 D19 橋がつながる瞬間 D20 回り始めた水車 D21 星空を運ぶ車 D22 砂漠の宿の朝 D23 糸が布になるまで D24 一杯の湯気の向こう まとめ：p.24

長文演習の基本

5 題：直接接続 → 近接転移 → 構造転移 → 遠隔転移 → 統合転移

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます。

D GROUP

第 1 部

L01-L06

文の骨格・時間・名詞の説明

核を見つける

和 訳

By the time the temple bell rang out over the town on the morning of the entrance ceremony, the cherry trees that earlier graduates had planted for those who would follow them were already in full bloom, like soft pink clouds.

英 訳

入学式の朝、梵鐘の音が町に響くころには、
かつての卒業生たちが後輩のために植えた桜が、
もう花の雲のように咲き誇っていた。

第1部の扉 → 課 01-06 → 第1部のまとめ (p.12)

文の骨格・時間・名詞の説明

核を見つける 主体・時間・受け渡し・目的・修飾・場所を正確に取り、文の骨格を一つの場面として捉える。

D01 夜明けの船倉 考えること 主体・動作・対象・状態 使うもの 入る前の文法 文型 (S・V・O・C)	
和訳で 「主体・動作・対象・状態」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「主体・動作・対象・状態」をもう一度見つける。
使用する長文 製本→ハキリアリ→ミツバチと花粉→マイクロファイバー→スマートフォン 次へ 時間軸を追加する	
統合転移 D01	

D02 パンの出発時刻 考えること 基準時・完了・継続 使うもの D01 主体・動作・対象 (時間の軸を足す土台)	
和訳で 「基準時・完了・継続」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「基準時・完了・継続」をもう一度見つける。
使用する長文 パン→発酵→ハチドリ→記憶→動詞の歴史 次へ 時間軸を保ったまま対象の受け渡しへ	
統合転移 D02 × D01	

D03 冷たい荷物のリレー 考えること 同一対象の変化と受け渡し 使うもの D01 対象 (同じ物を追う) D02 基準時 (工程の順序)	
和訳で 「同一対象の変化と受け渡し」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「同一対象の変化と受け渡し」をもう一度見つける。
使用する長文 スマホのリサイクル→年輪→カラス→歯の化学分析→ゾウの鳴き声 次へ 工程から目的・結果へ	
統合転移 D03 × D01	

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

文の骨格・時間・名詞の説明

核を見つける 主体・時間・受け渡し・目的・修飾・場所を正確に取り、文の骨格を一つの場面として捉える。

D04 空箱の帰り道

考えること **目的・行為・結果**

使うもの **D01** 動作と状態（行為の結果） | **D03** 受け渡し（工程の目的）

和訳で

「目的・行為・結果」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「目的・行為・結果」をもう一度見つける。

使用する長文 磁石のリサイクル→再利用水→図書館の延滞料→古代のごみ→食品表示

次へ 行為の意味から名詞・役割の説明へ

統合転移 **D04 × D01**

D05 港に並ぶ同じ箱

考えること **修飾対象・共通部分と個別差**

使うもの **D01** 対象（何を説明しているか） | **D03** 同一対象（言い換えを追う）

和訳で

「修飾対象・共通部分と個別差」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「修飾対象・共通部分と個別差」をもう一度見つける。

使用する長文 輸送コンテナ→鳥のデータ→標準時→名前→日付表示

次へ 名詞説明から場所・時点を含む照応へ

統合転移 **D05 × D01**

D06 二つの町の正午

考えること **人物・場所・時点・所有の統合**

使うもの **D05** 修飾の範囲 | **D02** 基準時（いつの話か）

和訳で

「人物・場所・時点・所有の統合」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「人物・場所・時点・所有の統合」をもう一度見つける。

使用する長文 地方時→鉄道の取り決め→天気予報→ハチドリの時間→潮の満ち引き

次へ 関係節を足場に分詞・観察範囲へ

統合転移 **D06 × D05**

第 1 部の出口→第 1 部のまとめ→第 2 部「関係と範囲」

ここまでで手に入れたもの

6 / 24 第 1 部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった 6 つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。

第 1 部 L01-L06 核を見つける	第 2 部 L07-L12 核の範囲を確かめる	第 3 部 L13-L18 核に条件を与える	第 4 部 L19-L24 全体へ戻す
D01 主体・動作・対象・状態 一文の骨格を取る	D07 観察範囲と見えない続き	D13 対比・理由・結果・状況変化	D19 成立時点・必要な前提
D02 基準時・完了・継続 時間の軸をそろえる	D08 観察者・指示者・実行者・結果	D14 必要条件・十分条件・許可条件	D20 連鎖効果・追加結果
D03 同一対象の変化と受け渡し 同じものを追う	D09 比較条件・数量・程度	D15 譲歩・残る制約・トレードオフ	D21 場所・状態変化・主体
D04 目的・行為・結果 行為の意味を読む	D10 既知・未知・確認事項	D16 先行・同時進行・証拠の射程	D22 条件変化と方法の適用範囲
D05 修飾対象・共通部分と個別差 修飾の範囲を決める	D11 否定の作用域	D17 仮定・予測・検証	D23 部分と全体・経路・仮定
D06 人物・場所・時点・所有の統合 一つの場面にまとめる	D12 準否定・理由否定・必要条件	D18 過去事実・反実仮想・転移限界	D24 複数主体・物・時点・条件の総合

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の 6 つを、次に使うところ

もの	使う課
D01	D02 基準時・完了・継続 D03 同一対象の変化と受け渡し D04 目的・行為・結果 D05 修飾対象・共通部分と個別差 D08 観察者・指示者・実行者・結果 D09 比較条件・数量・程度 D21 場所・状態変化・主体 D24 複数主体・物・時点・条件の総合
D02	D03 同一対象の変化と受け渡し D06 人物・場所・時点・所有の統合 D07 観察範囲と見えない続き D16 先行・同時進行・証拠の射程 D18 過去事実・反実仮想・転移限界 D19 成立時点・必要な前提 B22 客観時間と主観時間
D03	D04 目的・行為・結果 D05 修飾対象・共通部分と個別差 D20 連鎖効果・追加結果 B05 形の継承と意味の継承 A05 贈与後の所有・支配
D04	D12 準否定・理由否定・必要条件 D13 対比・理由・結果・状況変化 C09 優先順位 C10 目的と手段
D05	D06 人物・場所・時点・所有の統合 D07 観察範囲と見えない続き D09 比較条件・数量・程度 D11 否定の作用域 D23 部分と全体・経路・仮定 B09 知覚とカテゴリー化
D06	D21 場所・状態変化・主体 D24 複数主体・物・時点・条件の総合 C13 立場・参照枠 B03 経路知識と空間理解

第 1 部の出口

一文の骨格・時間・同じ対象・目的・修飾・場面の六つを、別々にではなく一つの文の中で同時に取れる。第 2 部では、この骨格が「どこまで言えるか」の範囲を確かめる足場になる。

第 1 部のまとめ → 第 2 部「関係と範囲」

D GROUP

第 2 部

L07-L12

関係と範囲

核の範囲を確かめる

和 訳

Not every swallow that returned with the bright,
warm breeze was counted, because the children
and their grandfather looked only under the eaves
along the lane within sound of the temple bell.

英 訳

子どもたちと祖父が見て回ったのは、
梵鐘の聞こえる参道沿いの軒下だけだったので、
風光るころに戻ってきた燕がすべて数えられたわけではなかった。

第2部の扉 → 課 07-12 → 第2部のまとめ (p.16)

関係と範囲

核の範囲を確かめる 観察範囲、役割、比較、既知/未知、否定、必要条件へ進み、「どこまで言えるか」を制御する。

D07 海底を渡る声 考えること 観察範囲と見えない続き 使うもの D05 後置修飾（分詞の係り先） D02 完了・継続（見えた時間の幅）	
和訳で 「観察範囲と見えない続き」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「観察範囲と見えない続き」をもう一度見つける。
使用する長文 冥王星からの信号 → さえずりと個体数 → 騒音によるかき消し → レーザー測量（LiDAR） → 地中の炭素 次へ 観察範囲から役割分担へ	
統合転移 D07 × D05	

D08 仕分け台の向こう 考えること 観察者・指示者・実行者・結果 使うもの D01 主体・動作・対象（誰が誰に） D07 観察範囲（見た人と見えたもの）	
和訳で 「観察者・指示者・実行者・結果」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「観察者・指示者・実行者・結果」をもう一度見つける。
使用する長文 市民科学 → 図書館 → 鳥の声の自動識別 → 空と地上からの地図づくり → 古材の年代測定 次へ 役割分担から比較基準へ	
統合転移 D08 × D01	

D09 一枚ずつ動き出す 考えること 比較条件・数量・程度 使うもの D05 共通部分と個別差（比べる相手） D01 状態（程度を表す補語）	
和訳で 「比較条件・数量・程度」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「比較条件・数量・程度」をもう一度見つける。
使用する長文 短距離走の記録 → 料金プラン → 移動手段の選択 → 街路の暑さ → 群衆の平均 次へ 比較から「何を知るか」へ	
統合転移 D09 × D05	

前半3Lesson → 後半3Lesson へ

関係と範囲

核の範囲を確かめる 観察範囲、役割、比較、既知/未知、否定、必要条件へ進み、「どこまで言えるか」を制御する。

D10 雨音をつくる部屋 考えること 既知・未知・確認事項 使うもの D08 観察者（誰が知っているか） D07 見えない続き（まだ分からないこと）	
和訳で 「既知・未知・確認事項」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「既知・未知・確認事項」をもう一度見つける。
使用する長文 吹き替え → 都市と農村の鳥 → 物語のタイミング → 音楽の同期 → 音楽の実験 次へ 既知/未知から否定範囲へ	
統合転移 D10 × D08	

D11 見えない街の裏側 考えること 否定の作用域 使うもの D10 既知・未知（何を否定しているか） D05 修飾の範囲（否定がかかる範囲）	
和訳で 「否定の作用域」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「否定の作用域」をもう一度見つける。
使用する長文 新聞の数字 → 人数と件数 → かたよった観察 → 無料バス → 見出しの主張 次へ 否定範囲から必要条件へ	
統合転移 D11 × D10	

D12 細い棒の先の役者 考えること 準否定・理由否定・必要条件 使うもの D11 否定の作用域 D04 目的・結果（理由との区別）	
和訳で 「準否定・理由否定・必要条件」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。 英訳で 主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。	長文で 複数段落・複数主体の中で「準否定・理由否定・必要条件」をもう一度見つける。
使用する長文 人形劇 → タコの皮膚 → 断熱 → 電池 → DNAの保護 次へ 条件を踏まえて因果・対比へ	
統合転移 D12 × D11	

第2部の出口 → 第2部のまとめ → 第3部「接続・条件・仮定」

ここまでで手に入れたもの

12 / 24 第2部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。

第1部 L01-L06 核を見つける	第2部 L07-L12 核の範囲を確かめる	第3部 L13-L18 核に条件を与える	第4部 L19-L24 全体へ戻す
D01 主体・動作・対象・状態 一文の骨格を取る	D07 観察範囲と見えない続き 見えた範囲で止める	D13 対比・理由・結果・状況変化	D19 成立時点・必要な前提
D02 基準時・完了・継続 時間の軸をそろえる	D08 観察者・指示者・実行者・結果 誰が動かしたかを分ける	D14 必要条件・十分条件・許可条件	D20 連鎖効果・追加結果
D03 同一対象の変化と受け渡し 同じものを追う	D09 比較条件・数量・程度 比べる相手と条件を決める	D15 譲歩・残る制約・トレードオフ	D21 場所・状態変化・主体
D04 目的・行為・結果 行為の意味を読む	D10 既知・未知・確認事項 分かっていることを分ける	D16 先行・同時進行・証拠の射程	D22 条件変化と方法の適用範囲
D05 修飾対象・共通部分と個別差 修飾の範囲を決める	D11 否定の作用域 否定の範囲を決める	D17 仮定・予測・検証	D23 部分と全体・経路・仮定
D06 人物・場所・時点・所有の統合 一つの場面にまとめる	D12 準否定・理由否定・必要条件 「～して初めて」を読む	D18 過去事実・反実仮想・転移限界	D24 複数主体・物・時点・条件の総合

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の 6 つを、次に使うところ

もの	使う課
D07	D08 観察者・指示者・実行者・結果 D10 既知・未知・確認事項 D16 先行・同時進行・証拠の射程
D08	D10 既知・未知・確認事項 C05 根拠の信頼性 C13 立場・参照枠
D09	D13 対比・理由・結果・状況変化 D22 条件変化と方法の適用範囲 C02 比較条件 B12 数字の範囲と見えない時間
D10	D11 否定の作用域 C01 観察と推論 B10 情報理解と感情・期待
D11	D12 準否定・理由否定・必要条件 B02 残存証拠と欠落
D12	D14 必要条件・十分条件・許可条件 D19 成立時点・必要な前提

第 2 部の出口

見えた範囲・役割・比較の条件・既知と未知・否定・必要条件で、一文が言っている範囲を線引きできる。第3部では、この範囲に条件と論理が加わる。

第2部のまとめ→第3部「接続・条件・仮定」

D GROUP

第 3 部

L13-L18

接続・条件・仮定

核に条件を与える

和 訳

If the wind had been blowing the other way, we
would not have heard the temple bell on the hill,
but as it was, the fragrant breeze carried its sound
over the carp streamers to my father and me.

英 訳

風向きが逆だったら、丘の上の梵鐘の音は聞こえなかっただろうが、
実際には、薫風が鯉のぼりの上を越えて、
その音を父と私のもとまで運んでくれた。

接続・条件・仮定

核に条件を与える 因果・条件・譲歩・証拠の射程・仮説・反実仮想を結び、文と文の論理を扱う。

D13 水路の分かれ道

考えること **対比・理由・結果・状況変化**

使うもの **D04** 目的・行為・結果 | **D09** 比較条件（対比の相手）

和訳で

「対比・理由・結果・状況変化」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「対比・理由・結果・状況変化」をもう一度見つける。

使用する長文 川のつながり → ビーバーと水 → マングローブと水の流れ → 植物の水 → 海水の淡水化

次へ 因果から条件成立へ

統合転移 **D13 × D04**

D14 水門を開く条件

考えること **必要条件・十分条件・許可条件**

使うもの **D12** 必要条件 | **D13** 理由・結果（因果との区別）

和訳で

「必要条件・十分条件・許可条件」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「必要条件・十分条件・許可条件」をもう一度見つける。

使用する長文 交通ルール → 山火事と種子 → デング熱が広がる条件 → ゲームのルール → 相関と因果

次へ 条件から制約・譲歩へ

統合転移 **D14 × D12**

D15 屋根に降る雨

考えること **譲歩・残る制約・トレードオフ**

使うもの **D13** 対比 | **D14** 条件（成り立つ範囲）

和訳で

「譲歩・残る制約・トレードオフ」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「譲歩・残る制約・トレードオフ」をもう一度見つける。

使用する長文 防水の布 → 水田 → マングローブの再生 → ビーバーの回復 → クリーン技術

次へ 制約から証拠の射程へ

統合転移 **D15 × D13**

前半3Lesson → 後半3Lesson へ

接続・条件・仮定

核に条件を与える 因果・条件・譲歩・証拠の射程・仮説・反実仮想を結び、文と文の論理を扱う。

D16 ゆっくり沈む粒

考えること **先行・同時進行・証拠の射程**

使うもの **D02** 基準時（先行と同時） | **D07** 観察範囲（証拠がどこまで示すか）

和訳で

「先行・同時進行・証拠の射程」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「先行・同時進行・証拠の射程」をもう一度見つける。

使用する長文 がんを嗅ぎ分けるアリ → 調査の欠測 → LiDARと地上での確認 → マグカップの実験 → マイクロバイオーム

次へ 証拠から仮説・予測へ

統合転移 **D16 × D02**

D17 風だけで進む船

考えること **仮定・予測・検証**

使うもの **D14** 条件 | **D16** 証拠の射程（仮説の強さ）

和訳で

「仮定・予測・検証」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「仮定・予測・検証」をもう一度見つける。

使用する長文 カーリング → カメの磁気感覚 → ミツバチと紫外線 → 落とした財布 → 対立する仮説

次へ 仮説から反実仮想へ

統合転移 **D17 × D14**

D18 折り畳まれた家

考えること **過去事実・反実仮想・転移限界**

使うもの **D17** 仮定と予測 | **D02** 基準時（過去の事実）

和訳で

「過去事実・反実仮想・転移限界」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「過去事実・反実仮想・転移限界」をもう一度見つける。

使用する長文 折り紙工学 → ヤモリに学ぶ技術 → 断熱の設計 → 試験結果の当てはめ → ゲノムの限界

次へ 反実から成立時点へ

統合転移 **D18 × D17**

第3部の出口 → 第3部のまとめ → 第4部「倒置と総合」

ここまでで手に入れたもの

18 / 24 第3部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。

第1部 L01-L06 核を見つける	第2部 L07-L12 核の範囲を確かめる	第3部 L13-L18 核に条件を与える	第4部 L19-L24 全体へ戻す
D01 主体・動作・対象・状態 一文の骨格を取る	D07 観察範囲と見えない続き 見えた範囲で止める	D13 対比・理由・結果・状況変化 対比と因果をつなぐ	D19 成立時点・必要な前提
D02 基準時・完了・継続 時間の軸をそろえる	D08 観察者・指示者・実行者・結果 誰が動かしたかを分ける	D14 必要条件・十分条件・許可条件 条件の強さを読む	D20 連鎖効果・追加結果
D03 同一対象の変化と受け渡し 同じものを追う	D09 比較条件・数量・程度 比べる相手と条件を決める	D15 譲歩・残る制約・トレードオフ 認めたらうで残る制約を取る	D21 場所・状態変化・主体
D04 目的・行為・結果 行為の意味を読む	D10 既知・未知・確認事項 分かっていることを分ける	D16 先行・同時進行・証拠の射程 証拠が示す範囲で言う	D22 条件変化と方法の適用範囲
D05 修飾対象・共通部分と個別差 修飾の範囲を決める	D11 否定の作用域 否定の範囲を決める	D17 仮定・予測・検証 仮説と予測を分ける	D23 部分と全体・経路・仮定
D06 人物・場所・時点・所有の統合 一つの場面にまとめる	D12 準否定・理由否定・必要条件 「～して初めて」を読む	D18 過去事実・反実仮想・転移限界 起きなかったことを読む	D24 複数主体・物・時点・条件の総合

 この部で加わった  すでに手に入れた  薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
D13	D14 必要条件・十分条件・許可条件 D15 譲歩・残る制約・トレードオフ D20 連鎖効果・追加結果 C03 根拠
D14	D15 譲歩・残る制約・トレードオフ D17 仮定・予測・検証 D24 複数主体・物・時点・条件の総合 C07 成立・継続条件
D15	C17 トレードオフ
D16	D17 仮定・予測・検証 C01 観察と推論 C04 相関と原因 B23 観測時点と対象の現在
D17	D18 過去事実・反実仮想・転移限界 D23 部分と全体・経路・仮定 C11 リスク B13 予測と起こらなかった結果
D18	D22 条件変化と方法の適用範囲 B13 予測と起こらなかった結果 A11 後知恵と当時の可能性

第3部の出口

因果・条件・譲歩・証拠の射程・仮説・反実仮想で、文と文の関係を論理として扱える。第4部では、これらを一つの場面に戻す。

第3部のまとめ → 第4部「倒置と総合」

D GROUP

第 4 部

L19-L24

倒置と総合

[全体へ戻る](#)

和 訳

Only when the long rains finally stopped did my mother and
I see the hydrangeas around the old temple bell, the moss
along the path, and the little bamboo-leaf boats the children
had floated on the pond come together as one garden.

英 訳

五月雨がようやくやんで初めて、母と私の目に、
古い梵鐘のまわりの紫陽花も、小道の苔も、
子どもたちが池に浮かべた笹舟も、一つの庭として映った。

第4部の扉 → 課 19-24 → 第4部のまとめ (p.24)

倒置と総合

全体へ戻す 成立時点・連鎖・空間・条件変化・部分/全体を統合し、複数主体・時点・条件を一つに戻す。

D19 橋がつながる瞬間

考えること **成立時点・必要な前提**

使うもの **D12** 必要条件（not until） | **D02** 基準時（成立した時点）

和訳で

「成立時点・必要な前提」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「成立時点・必要な前提」をもう一度見つける。

使用する長文 気球の飛行 → リレーの走順 → 医学の先駆者 → 小川の変化の前後 → 睡眠の合図

次へ 成立時点から連鎖へ

統合転移 **D19 × D12**

D20 回り始めた水車

考えること **連鎖効果・追加結果**

使うもの **D13** 理由・結果 | **D03** 同一対象（前の内容を受ける which）

和訳で

「連鎖効果・追加結果」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「連鎖効果・追加結果」をもう一度見つける。

使用する長文 食物網 → 腐肉を食べる動物の減少 → カラスの学習 → 学校改革 → 山火事の抑制

次へ 連鎖から空間配置へ

統合転移 **D20 × D13**

D21 星空を運ぶ車

考えること **場所・状態変化・主体**

使うもの **D06** 場所・時点 | **D01** 主体と状態（本当の主語）

和訳で

「場所・状態変化・主体」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「場所・状態変化・主体」をもう一度見つける。

使用する長文 博物館 → 屋上農園 → 車のない街の中心 → スマート照明 → 学校の時間割

次へ 空間配置から条件変化へ

統合転移 **D21 × D06**

前半3Lesson → 後半3Lessonへ

倒置と総合

全体へ戻す 成立時点・連鎖・空間・条件変化・部分/全体を統合し、複数主体・時点・条件を一つに戻す。

D22 砂漠の宿の朝

考えること **条件変化と方法の適用範囲**

使うもの **D09** 比較 (the＋比較級) | **D18** 転移限界 (効く範囲)

和訳で

「条件変化と方法の適用範囲」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「条件変化と方法の適用範囲」をもう一度見つける。

使用する長文 素焼きの壺による冷却 → 日陰と蒸散 → 日陰の配置 → 建物の高さ → 暑さへのさらされ方

次へ 条件変化から部分/全体へ

統合転移 **D22 × D09**

D23 糸が布になるまで

考えること **部分と全体・経路・仮定**

使うもの **D05** 共通部分と個別差 | **D17** 仮定を置く

和訳で

「部分と全体・経路・仮定」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「部分と全体・経路・仮定」をもう一度見つける。

使用する長文 熱の伝わり方 → ヤモリの足 → 混合物の分離 → 衣服の役割 → 菌類のネットワーク

次へ 部分/全体から全要素統合へ

統合転移 **D23 × D05**

D24 一杯の湯気の向こう

考えること **複数主体・物・時点・条件の総合**

使うもの **D01** 骨格 | **D06** 場面の統合 | **D14** 条件

和訳で

「複数主体・物・時点・条件の総合」を一文の中で見分け、表現が変わっても同じ構造を保って読む。

英訳で

主語や明示する情報を選び、同じ構造を自分の英文として組み立てる。

長文で

複数段落・複数主体の中で「複数主体・物・時点・条件の総合」をもう一度見つける。

使用する長文 南極の観測基地 → レシピ → アリと菌類 → 食の伝統 → 航海の手がかり

次へ C01で「構造」から「観察と推論の関係」へ

統合転移 **D24 × D01**

第4部の出口 → 第4部のまとめ → C群 / Relation

ここまでで手に入れたもの

24 / 24 第4部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。この群の24がそろいました。

第1部 L01-L06 核を見つける	第2部 L07-L12 核の範囲を確かめる	第3部 L13-L18 核に条件を与える	第4部 L19-L24 全体へ戻す
D01 主体・動作・対象・状態 一文の骨格を取る	D07 観察範囲と見えない続き 見えた範囲で止める	D13 対比・理由・結果・状況変化 対比と因果をつなぐ	D19 成立時点・必要な前提 成立した時点を確認する
D02 基準時・完了・継続 時間の軸をそろえる	D08 観察者・指示者・実行者・結果 誰が動かしたかを分ける	D14 必要条件・十分条件・許可条件 条件の強さを読む	D20 連鎖効果・追加結果 連鎖を最後までたどる
D03 同一対象の変化と受け渡し 同じものを追う	D09 比較条件・数量・程度 比べる相手と条件を決める	D15 譲歩・残る制約・トレードオフ 認めたらうえて残る制約を取る	D21 場所・状態変化・主体 本当の主語を見つける
D04 目的・行為・結果 行為の意味を読む	D10 既知・未知・確認事項 分かっていることを分ける	D16 先行・同時進行・証拠の射程 証拠が示す範囲で言う	D22 条件変化と方法の適用範囲 方法が効く範囲を決める
D05 修飾対象・共通部分と個別差 修飾の範囲を決める	D11 否定の作用域 否定の範囲を決める	D17 仮定・予測・検証 仮説と予測を分ける	D23 部分と全体・経路・仮定 部分を全体に広げない
D06 人物・場所・時点・所有の統合 一つの場面にまとめる	D12 準否定・理由否定・必要条件 「～して初めて」を読む	D18 過去事実・反実仮想・転移限界 起きなかったことを読む	D24 複数主体・物・時点・条件の総合 長い一文を一つの場面に戻す

 この部で加わった  すでに手に入れた  薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
D19	C07 成立・継続条件
D20	B20 事実の配列と物語化
D21	B03 経路知識と空間理解
D22	C18 条件付き調整案
D23	B03 経路知識と空間理解
D24	A20 形式と機能を保つ翻訳

第4部の出口

成立時点・連鎖・空間・条件変化・部分と全体を統合し、複数の主体・時点・条件を一つの場面に戻せる。C群では、この骨格を土台に、観察と推論の関係へ進む。

第4部のまとめ → C群 / Relation

夏 / 交差
C GROUP

RELATION

関係 - 関係を見つける

中心の問い

何と何が、どの条件のもとで、どう関係しているのか。

複数の情報が出会い、原因・条件・比較・制約として交差する。

対応する大学 旧六医大・神戸市外国語大・北九州市立大・名古屋市立大・関関同立・MARCH	入る前に=D群の出口 英文の骨格を自力でほどき、意味構造を保って自然な日本語・英語へ組み直せる。	この群を終えると 複数情報の関係を読み、条件・根拠・限界を保ったまま判断を説明できる。
---	--	---

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6→12→18→24と増えていきます（p.30、34、38、42）。

第1部 観察と根拠 観察を交差させる	第2部 条件と実行可能性 条件を交差させる	第3部 制約下の調整 利害を交差させる	第4部 根拠ある判断と正当化 交差を判断へ束ねる
--	---	---	--

RELATION

C 群の見取り図

24Lesson を 4 部に分け、関係を見つける力を段階的に育てます。

第 1 部 L01-L06 観察と根拠 観察を交差させる 観察→比較→根拠→原因→信頼性→暫定的結論へ進み、推論の根拠を管理する。 C01 バス停を渡る風 C02 橋の下を流れる葉 C03 演奏会のあとで C04 木陰でひらく地図 C05 写真の中の赤い自転車 C06 温室からの便り まとめ：p.30	第 2 部 L07-L12 条件と実行可能性 条件を交差させる 条件→制約→優先順位→手段→リスク→実行可能性へ進み、判断を現実の条件に接続する。 C07 水やりを待つ花壇 C08 曲がり角の先 C09 出番を待つ道具 C10 散歩道の小さな店 C11 放課後の窓辺 C12 土曜日の予定表 まとめ：p.34
第 3 部 L13-L18 制約下の調整 利害を交差させる 立場→条件衝突→共通制約→優先順位調整→トレードオフ→条件付き調整案へ進む。 C13 海の向こうの日常 C14 祖父の台所から C15 工房に響く音 C16 引き出しの中のプログラム C17 絵を見つめる午後 C18 雨上がりの歩道 まとめ：p.38	第 4 部 L19-L24 根拠ある判断と正当化 交差を判断へ束ねる 選択肢→評価基準→比較→不利益の受容→正当化→不確実性を残した最終判断へ統合する。 C19 駅前の白い日差し C20 祭り支度の昼下がり C21 名前を呼んでくれる店 C22 机の上の実験ノート C23 ページの余白に C24 展示室に集まる日々 まとめ：p.42

長文演習の基本

5 題：入口 → 大学入試問題で確かめる → 別の分野へ → 総合（㊦ 再読・㊧ 読み比べ）

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます。

C GROUP

第 1 部

L01-L06

観察と根拠

観察を交差させる

和 訳

Since the town dimmed its street lights, more fireflies
have been crisscrossing above the stream in the
deepening dusk, though the children and neighbors who
count them together say it will take years to know why.

英 訳

町が街灯を暗くしてから、宵闇の川面で交差する蛍火は増えたが、
一緒に数えている子どもたちや近所の人たちは、
その理由を知るにはまだ何年もかかるという。

観察と根拠

観察を交差させる 観察→比較→根拠→原因→信頼性→暫定的結論へ進み、推論の根拠を管理する。

C01 バス停を渡る風

考えること **観察と推論**

使うもの **D16** 証拠の射程（観察が示す範囲） | **D10** 既知・未知

和訳で

複数の情報から「観察と推論」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「観察と推論」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 D-R07 → 鹿児島大 2001 → 立教大 2007 → 信州大 2014 → C-R16

次へ 比較条件へ

統合転移 **C01 × D16**

C02 橋の下を流れる葉

考えること **比較条件**

使うもの **C01** 観察（受け手の反応と学習過程） | **D09** 比較条件

和訳で

複数の情報から「比較条件」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「比較条件」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R07 → 島根大 2015 → 岡山大 2025 → 明治大 2015 → 福井大 2025

次へ 比較結果の根拠へ

統合転移 **C02 × C01**

C03 演奏会のあとで

考えること **根拠**

使うもの **C01** 観察と推論 | **D13** 理由・結果

和訳で

複数の情報から「根拠」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「根拠」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 B-R09 → 関西大 2018 → D-R13 → 名古屋市立大 2013 → 鳥取大 2021

次へ 根拠が原因を示すかへ

統合転移 **C03 × C01**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

観察と根拠

観察を交差させる 観察→比較→根拠→原因→信頼性→暫定的結論へ進み、推論の根拠を管理する。

C04 木陰でひらく地図

考えること **相関と原因**

使うもの **D16** 証拠の射程（観察が示す範囲） | **C02** 比較条件（そろえた条件）

和訳で

複数の情報から「相関と原因」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「相関と原因」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R06 → D-R01 → 信州大 2013 → E-L56 → 愛媛大 2011

次へ 原因判断を支える証拠品質へ

統合転移 **C04 × D16**

C05 写真の中の赤い自転車

考えること **根拠の信頼性**

使うもの **C03** 根拠 | **D08** 観察者（誰が見たか）

和訳で

複数の情報から「根拠の信頼性」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「根拠の信頼性」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R15 → 青山学院大 2008 → 新潟大 2010 → 愛媛大 2019 → 信州大 2021

次へ 証拠品質から暫定結論へ

統合転移 **C05 × C03**

C06 温室からの便り

考えること **暫定的結論**

使うもの **C03** 根拠（飲水量の根拠の限界） | **C05** 根拠の信頼性

和訳で

複数の情報から「暫定的結論」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「暫定的結論」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R01 → 金沢大 2024 → D-R35 → 名古屋市立大 2015 → 立教大 2010

次へ 結論を行動へ移す条件へ

統合転移 **C06 × C03**

第 1 部の出口 → 第 1 部のまとめ → 第 2 部「条件と実行可能性」

ここまでで手に入れたもの

6/24 第 1 部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった 6 つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。 前の群までの分：D 群 24 (p.24)

第 1 部 L01-L06 観察を交差させる	第 2 部 L07-L12 条件を交差させる	第 3 部 L13-L18 利害を交差させる	第 4 部 L19-L24 交差を判断へ束ねる
C01 観察と推論 観察と推論を分ける	C07 成立・継続条件	C13 立場・参照枠	C19 選択肢整理
C02 比較条件 そろえた条件を確かめる	C08 制約	C14 条件の衝突	C20 評価基準
C03 根拠 主張と根拠を結ぶ	C09 優先順位	C15 共通制約	C21 共通基準による比較
C04 相関と原因 相関を因果にしない	C10 目的と手段	C16 優先順位の調整	C22 不利益の受容
C05 根拠の信頼性 証拠の質を見る	C11 リスク	C17 トレードオフ	C23 判断の正当化
C06 暫定的結論 今言えることに限る	C12 実行可能性	C18 条件付き調整案	C24 不確実性を残した最終判断

☒ この部で加わった ☐すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の 6 つを、次に使うところ

もの	使う課
C01	C02 比較条件 C03 根拠 B01 観察された沈黙と本人の意図
C02	C04 相関と原因
C03	C05 根拠の信頼性 C06 暫定的結論 C23 判断の正当化 B06 集団結果と個人への一般化
C04	C08 制約 B06 集団結果と個人への一般化
C05	C06 暫定的結論 B12 数字の範囲と見えない時間 B17 援助者の知識の限界 A07 経験の確かさと説明の正しさ
C06	C10 目的と手段 C11 リスク C24 不確実性を残した最終判断 B02 残存証拠と欠落 B18 非観測と不不存在

第 1 部の出口

観察と推論、比較の条件、根拠、相関と因果、証拠の質、暫定的な結論で、推論の根拠を管理できる。第 2 部では、判断を現実の条件に接続する。

C GROUP

第 2 部

L07-L12

条件と実行可能性

条件を交差させる

和 訳

The fireworks will go ahead as planned as long as the cool evening breeze stays gentle and there are enough volunteers at the intersection by the river to help older neighbors to their seats.

英 訳

夕べの涼風が穏やかなままで、川沿いの交差点でお年寄りを席まで案内するボランティアが足りていれば、花火大会は予定どおり開かれる。

条件と実行可能性

条件を交差させる 条件→制約→優先順位→手段→リスク→実行可能性へ進み、判断を現実の条件に接続する。

C07 水やりを待つ花壇

考えること **成立・継続条件**

使うもの **D14** 必要条件・十分条件 | **D19** 成立時点（何がそろって始まるか）

和訳で

複数の情報から「成立・継続条件」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「成立・継続条件」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 鹿児島大 2016 → C-R09 → C-R08 → 鹿児島大 2023 → B-R20

次へ 条件から動かせない制約へ

統合転移 **C07 × D14**

C08 曲がり角の先

考えること **制約**

使うもの **C04** 原因の候補と介入の範囲（睡眠） | **C07** 成立・継続条件

和訳で

複数の情報から「制約」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「制約」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 オリジナル → 信州大 2019 → 新潟大 2018 → E-L42 → 立教大 2013

次へ 制約下で何を優先するかへ

統合転移 **C08 × C04**

C09 出番を待つ道具

考えること **優先順位**

使うもの **C08** 制約 | **D04** 目的

和訳で

複数の情報から「優先順位」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「優先順位」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 E-L66 → C-R10 → オリジナル → 名古屋市立大 2013 → 愛媛大 2016

次へ 優先目的を保つ手段へ

統合転移 **C09 × C08**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

条件と実行可能性

条件を交差させる 条件→制約→優先順位→手段→リスク→実行可能性へ進み、判断を現実の条件に接続する。

C10 散歩道の小さな店

考えること **目的と手段**

使うもの **C06** 学ぶ過程と成果物（説明の見直し） | **D04** 目的・行為・結果

和訳で

複数の情報から「目的と手段」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「目的と手段」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 新潟大 2018 → 金沢大 2001 → D-R23 → 長崎大 2022 → 香川大 2025

次へ 手段が失敗するリスクへ

統合転移 **C10 × C06**

C11 放課後の窓辺

考えること **リスク**

使うもの **C06** 暫定的結論（起こりうること） | **D17** 予測

和訳で

複数の情報から「リスク」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「リスク」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 オリジナル → 新潟大 2017 → D-R24 → C-R11 → 鳥取大 2025

次へ リスク込みの実行可能性へ

統合転移 **C11 × C06**

C12 土曜日の予定表

考えること **実行可能性**

使うもの **C07** 修理に必要な条件 | **C11** リスク

和訳で

複数の情報から「実行可能性」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「実行可能性」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R13 → D-R08 → 信州大 2018 → D-R38 → 立命館大 2021

次へ 実行判断に立場を加える

統合転移 **C12 × C07**

第2部の出口 → 第2部のまとめ → 第3部「制約下の調整」

ここまでで手に入れたもの

12/24 第2部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D群24 (p.24)

第1部 L01-L06 観察を交差させる	第2部 L07-L12 条件を交差させる	第3部 L13-L18 利害を交差させる	第4部 L19-L24 交差を判断へ束ねる
C01 観察と推論 観察と推論を分ける	C07 成立・継続条件 始める条件と続ける条件を分ける	C13 立場・参照枠	C19 選択肢整理
C02 比較条件 そろえた条件を確認する	C08 制約 動かせない条件を見抜く	C14 条件の衝突	C20 評価基準
C03 根拠 主張と根拠を結ぶ	C09 優先順位 何を先にしたかを読む	C15 共通制約	C21 共通基準による比較
C04 相関と原因 相関を因果にしない	C10 目的と手段 目的と手段のすり替えに気づく	C16 優先順位の調整	C22 不利益の受容
C05 根拠の信頼性 証拠の質を見る	C11 リスク 起こりやすさと大きさを分ける	C17 トレードオフ	C23 判断の正当化
C06 暫定的結論 今言えることに限る	C12 実行可能性 望ましさと実行可能性を分ける	C18 条件付き調整案	C24 不確実性を残した最終判断

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
C07	C08 制約 C12 実行可能性 B19 制度アクセスと実利用
C08	C09 優先順位 C14 条件の衝突
C09	C16 優先順位の調整 C22 不利益の受容 B07 周囲の評価と本人の選択
C10	B11 外部機能と内部の意味 A09 支援技術と選択目的
C11	C12 実行可能性 C19 選択肢整理 A13 集団確率と個人判断
C12	C14 条件の衝突 C19 選択肢整理 B15 設計どおりと使用可能性

第2部の出口

成立と継続の条件、制約、優先順位、目的と手段、リスク、実行可能性で、判断を現実の条件で考えられる。第3部では、立場の違いが加わる。

C GROUP

第 3 部

L13-L18

制約下の調整

利害を交差させる

和 訳

Each neighborhood wanted the festival stage on its own street, so they set it up at the crossroads where the two streets meet, took turns dancing in the evening glow, and all danced together once the lanterns were lit.

英 訳

どちらの町内も祭りの舞台を自分たちの通りに置きたがったので、
二つの通りが交差するところに舞台を設け、
夕映えのなかでは交代で踊り、灯ともし頃からは皆で一緒に踊った。

制約下の調整

利害を交差させる 立場→条件衝突→共通制約→優先順位調整→トレードオフ→条件付き調整案へ進む。

C13 海の向こうの日常

考えること **立場・参照枠**

使うもの **D06** 場所・時点（地域ごとの時刻） | **D08** 観察者（誰の目か）

和訳で

複数の情報から「立場・参照枠」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「立場・参照枠」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 長崎大 2009 → 信州大 2015 → E-L60 → 岡山大 2006 → D-R09

次へ 立場差から条件衝突へ

統合転移 **C13 × D06**

C14 祖父の台所から

考えること **条件の衝突**

使うもの **C12** 誰が、どこまで利用できるか | **C08** 睡眠と始業時刻の制約

和訳で

複数の情報から「条件の衝突」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「条件の衝突」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 オリジナル → 鳥取大 2011 → B-R11 → 金沢大 2022 → 関西学院大 2012

次へ 衝突の背後の共通制約へ

統合転移 **C14 × C12**

C15 工房に響く音

考えること **共通制約**

使うもの **C13** 地域ごとの時刻から共同の規則へ | **C14** 条件の衝突

和訳で

複数の情報から「共通制約」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「共通制約」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 オリジナル → C-R12 → 福井大 2017 → 岡山大 2007 → B-R01

次へ 共通制約下で優先順位調整へ

統合転移 **C15 × C13**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

制約下の調整

利害を交差させる 立場→条件衝突→共通制約→優先順位調整→トレードオフ→条件付き調整案へ進む。

C16 引き出しの中のプログラム

考えること **優先順位の調整**

使うもの **C09** 優先順位 | **C15** 共通制約

和訳で

複数の情報から「優先順位の調整」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「優先順位の調整」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 新潟大 2024 → 新潟大 2003 → B-R10 → 長崎大 2025 → D-R36

次へ 調整が生む損失へ

統合転移 **C16 × C09**

C17 絵を見つめる午後

考えること **トレードオフ**

使うもの **C16** 誰が得て誰が負担するか | **D15** トレードオフ

和訳で

複数の情報から「トレードオフ」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「トレードオフ」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 新潟大 2001 → 鹿児島大 2025 → B-R15 → 岡山大 2024 → E-L52

次へ 損失込みの調整案へ

統合転移 **C17 × C16**

C18 雨上がりの歩道

考えること **条件付き調整案**

使うもの **C13** 住民の暮らしを保つ条件（観光） | **C17** トレードオフ | **D22** 適用範囲（提案が効く範囲）

和訳で

複数の情報から「条件付き調整案」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「条件付き調整案」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 長崎大 2023 → 鹿児島大 2020 → B-R14 → 高知大 2018 → D-R29

次へ 複数案の整理へ

統合転移 **C18 × C13**

第3部の出口 → 第3部のまとめ → 第4部「根拠ある判断と正当化」

ここまでで手に入れたもの

18/24 第3部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D群24 (p.24)

第1部 L01-L06 観察を交差させる	第2部 L07-L12 条件を交差させる	第3部 L13-L18 利害を交差させる	第4部 L19-L24 交差を判断へ束ねる
C01 観察と推論 観察と推論を分ける	C07 成立・継続条件 始める条件と続ける条件を分ける	C13 立場・参照枠 誰の物差しかを確かめる	C19 選択肢整理
C02 比較条件 そろえた条件を確かめる	C08 制約 動かせない条件を見抜く	C14 条件の衝突 ぶつかる条件を特定する	C20 評価基準
C03 根拠 主張と根拠を結ぶ	C09 優先順位 何を先にしたかを読む	C15 共通制約 共通の制約を見つける	C21 共通基準による比較
C04 相関と原因 相関を因果にしない	C10 目的と手段 目的と手段のすり替えに気づく	C16 優先順位の調整 譲った点と守った点を読む	C22 不利益の受容
C05 根拠の信頼性 証拠の質を見る	C11 リスク 起こりやすさと大きさを分ける	C17 トレードオフ 得たものと失ったものを数える	C23 判断の正当化
C06 暫定的結論 今言えることに限る	C12 実行可能性 望ましさと実行可能性を分ける	C18 条件付き調整案 案が効く条件を保つ	C24 不確実性を残した最終判断

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
C13	C15 共通制約 C18 条件付き調整案 B01 観察された沈黙と本人の意図 B04 字面・発話意図・受け取り B16 視点変更と過去評価
C14	C15 共通制約
C15	C16 優先順位の調整 C21 共通基準による比較
C16	C17 トレードオフ B14 計画と現在進行の再調整
C17	C18 条件付き調整案 A04 測定可能な改善と価値
C18	C20 評価基準

第3部の出口

立場、条件の衝突、共通制約、優先順位の調整、トレードオフ、条件付きの調整案で、利害の交差を整理できる。第4部では、これを判断へ束ねる。

C GROUP

第 4 部

L19-L24

根拠ある判断と正当化

交差を判断へ束ねる

和 訳

Though clouds might still hide the harvest moon, the class
chose the school roof despite the four flights of stairs,
because no other place would let everyone watch it rise
together over the spot where the railway crosses the river.

英 訳

雲が名月を隠すかもしれなかったが、
線路と川が交差するあたりの空に昇る月を
皆で眺められる場所はほかになかったので、
クラスは四階分の階段もいとわず屋上を選んだ。

第4部の扉→課19-24→第4部のまとめ(p.42)

根拠ある判断と正当化

交差を判断へ束ねる 選択肢→評価基準→比較→不利益の受容→正当化→不確実性を残した最終判断へ統合する。

C19 駅前の白い日差し

考えること **選択肢整理**

使うもの **C12** 修理・譲渡の後に使われるか | **C11** 止まった場合に使えるか（支払い）

和訳で

複数の情報から「選択肢整理」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「選択肢整理」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 長崎大 2024 → D-R03 → C-R18 → 鳥取大 2014 → 鹿児島大 2024

次へ 案を評価する基準へ

統合転移 **C19 × C12**

C20 祭り支度の昼下がり

考えること **評価基準**

使うもの **C19** 返品後の行先と全体の効果 | **C18** 食品ロスから日付表示へ

和訳で

複数の情報から「評価基準」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「評価基準」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R04 → 関西大 2019 → 岡山大 2018 → D-R28 → D-R20

次へ 共通基準で比較へ

統合転移 **C20 × C19**

C21 名前を呼んでくれる店

考えること **共通基準による比較**

使うもの **C15** 柔軟さと負担を測れる側面へ分解する | **C20** 評価基準

和訳で

複数の情報から「共通基準による比較」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「共通基準による比較」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R14 → 高知大 2007 → D-R05 → 島根大 2024 → 金沢大 2015

次へ 不利益を認めた選択へ

統合転移 **C21 × C15**

前半3Lesson → 後半3Lessonへ

根拠ある判断と正当化

交差を判断へ束ねる 選択肢→評価基準→比較→不利益の受容→正当化→不確実性を残した最終判断へ統合する。

C22 机の上の実験ノート

考えること **不利益の受容**

使うもの **C09** 優先基準で残る待ち時間 | **C21** 原物と複製の比較

和訳で

複数の情報から「不利益の受容」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「不利益の受容」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 鹿児島大 2013 → C-R14 ^UC21 → 金沢大 2020 → C-R10 ^UC09 → 鳥取大 2023

次へ 選択を根拠で正当化へ

統合転移 **C22 × C09 ・ C21**

C23 ページの余白に

考えること **判断の正当化**

使うもの **C03** 根拠 | **C22** 受け入れた不利益

和訳で

複数の情報から「判断の正当化」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「判断の正当化」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 C-R17 → 金沢大 2009 → 香川大 2016 → B-R03 → 岡山大 2009

次へ 正当化に不確実性を残すへ

統合転移 **C23 × C03**

C24 展示室に集まる日々

考えること **不確実性を残した最終判断**

使うもの **C06** 暫定的結論 | **C23** 正当化

和訳で

複数の情報から「不確実性を残した最終判断」を読み分け、条件が変わっても関係の方向を保つ。

英訳で

因果・条件・比較など、必要な関係を英語の論理として表す。

長文で

証拠・条件・反例を照合し、「不確実性を残した最終判断」からどこまで判断できるかを考える。

使用する長文 E-L80 → 福井大 2022 → E-L54 → 岡山大 2023 → 島根大 2025

次へ B01で「関係」から「人間の受け止め」へ

統合転移 **C24 × C06**

第 4 部の出口 → 第 4 部のまとめ → B群 / Interpretation

ここまでで手に入れたもの

24 / 24 第4部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。この群の24がそろいました。 前の群までの分：D群24（p.24）

第1部 L01-L06 観察を交差させる	第2部 L07-L12 条件を交差させる	第3部 L13-L18 利害を交差させる	第4部 L19-L24 交差を判断へ束ねる
C01 観察と推論 観察と推論を分ける	C07 成立・継続条件 始める条件と続ける条件を分ける	C13 立場・参照枠 誰の物差しかを確かめる	C19 選択肢整理 外した案まで見る
C02 比較条件 そろえた条件を確かめる	C08 制約 動かせない条件を見抜く	C14 条件の衝突 ぶつかる条件を特定する	C20 評価基準 基準を先に示す
C03 根拠 主張と根拠を結ぶ	C09 優先順位 何を先にしたかを読む	C15 共通制約 共通の制約を見つける	C21 共通基準による比較 同じ物差しで比べる
C04 相関と原因 相関を因果にしない	C10 目的と手段 目的と手段のすり替えに気づく	C16 優先順位の調整 譲った点と守った点を読む	C22 不利益の受容 承知で受け入れた不利益を読む
C05 根拠の信頼性 証拠の質を見る	C11 リスク 起こりやすさと大きさを分ける	C17 トレードオフ 得たものと失ったものを数える	C23 判断の正当化 結論と筋道を対応させる
C06 暫定的結論 今言えることに限る	C12 実行可能性 望ましさと実行可能性を分ける	C18 条件付き調整案 案が効く条件を保つ	C24 不確実性を残した最終判断 不確かさを残して判断する

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
C19	C20 評価基準
C20	C21 共通基準による比較 B09 知覚とカテゴリー化 A02 平等な配分と公平
C21	C22 不利益の受容 A06 普遍基準と差異
C22	C23 判断の正当化
C23	C24 不確実性を残した最終判断 A19 発見と正当化・書くこと
C24	A08 同一証拠に適合する複数説明

第4部の出口

選択肢、評価基準、共通基準、不利益の受容、正当化、不確実性を残した最終判断で、根拠ある判断を説明できる。B群では、この判断が人にどう受け止められるかへ進む。

秋 / 結び
B GROUP

INTERPRETATION

解釈 - 意味を結ぶ

中心の問い

誰から見た世界なのか。なぜ、その意味になったのか。

事実と経験、視点と文脈を結び、意味が生まれる過程を読む。

対応する大学 北海道大・東北大・名古屋大・九州大・筑波大・神戸大・広島大・大阪公立大・旧六医大上位・医科大学	入る前に＝C群の出口 複数情報の関係を読み、条件・根拠・限界を保ったまま判断を説明できる。	この群を終えると 事実・視点・含意を分け、相手や文脈に応じた意味を根拠付きで再構成できる。
--	---	---

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます（p.48、52、56、60）。

第1部 場面・行為・条件 事実と意味を結ぶ	第2部 受け止めと判断の根拠 視点と受け止めを結ぶ	第3部 判断と応答の修正 新しい証拠で結び直す	第4部 他者と時間への応答 結びを応答へ変える
--	--	--	--

INTERPRETATION

B 群の見取り図

24Lesson を 4 部に分け、意味を結ぶ力を段階的に育てます。

第 1 部 L01-L06 場面・行為・条件 事実と意味を結ぶ 観察された行為・残存証拠・参照枠・発話意図・継承・一般化を分け、事実と解釈の境界を作る。 B01 言葉を待つ B02 残されたもの B03 町を歩く B04 舞台の内と外 B05 残すこと、変えること B06 試してみる まとめ：p.48	第 2 部 L07-L12 受け止めと判断の根拠 視点と受け止めを結ぶ 本人の選択・曖昧な返答・カテゴリー・期待・場の意味・数量の盲点を、人間の受け止めとして読む。 B07 選ぶ人 B08 言わなかったこと B09 葉の間の気配 B10 期待の置き場所 B11 町の内側 B12 数から考える まとめ：p.52
第 3 部 L13-L18 判断と応答の修正 新しい証拠で結び直す 予測・計画・設計・視点・援助者の知識・非観測を、現実の反応や新証拠で修正する。 B13 予測の後で B14 音を合わせる B15 手を動かす B16 見る位置 B17 霧の向こうの駅 B18 地面の下 まとめ：p.56	第 4 部 L19-L24 他者と時間への応答 結びを応答へ変える 制度アクセス・物語化・援助・時間経験・観測時点・継承を統合し、現在の他者への応答へ進む。 B19 窓口の向こう B20 物語の仕掛け B21 助けのかたち B22 待つということ B23 遠くを見る B24 実りのあとに まとめ：p.60

長文演習の基本

3 題：近い文脈 → 別の視点 → 統合的な解釈

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます。

B GROUP

第 1 部

L01-L06

場面・行為・条件

事実と意味を結ぶ

和 訳

When she stopped on the way home and took her time retying her ribbon, her little brother worried that she was tired, but she was only lingering in the scent of the fragrant olive.

英 訳

帰り道で彼女が立ち止まり、ゆっくりリボンを結び直していると、
弟は姉が疲れたのではと心配したが、
彼女はただ金木犀の薫る中にたたずんでいただけだった。

B GROUP / 第 1 部

場面・行為・条件

事実と意味を結ぶ 観察された行為・残存証拠・参照枠・発話意図・継承・一般化を分け、事実と解釈の境界を作る。

B01 言葉を待つ

考えること **観察された沈黙と本人の意図**

使うもの **C01** 観察と推論 | **C13** 立場（誰の解釈か）

和訳で

観察できる事実と「観察された沈黙と本人の意図」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「観察された沈黙と本人の意図」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 旭川医科大 2023 → 東京大 2011 → 旭川医科大 2021

次へ 残された証拠へ

統合的解釈 **B01 × C01**

B02 残されたもの

考えること **残存証拠と欠落**

使うもの **C06** 暫定的結論 | **D11** 否定（ないことから言えること）

和訳で

観察できる事実と「残存証拠と欠落」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「残存証拠と欠落」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 京都大 2022 → 九州大 2011 → 和歌山県立医科大 2020

次へ 証拠から空間理解へ

統合的解釈 **B02 × C06**

B03 町を歩く

考えること **経路知識と空間理解**

使うもの **D06** 場所・時点 | **D21** 場所と状態変化 | **D23** 部分と全体

和訳で

観察できる事実と「経路知識と空間理解」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「経路知識と空間理解」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 東北大 2017 → 東北大 2011 → 神戸大 2019

次へ 参照枠から発話意図へ

統合的解釈 **B03 × D06**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

B GROUP / 第 1 部

場面・行為・条件

事実と意味を結ぶ 観察された行為・残存証拠・参照枠・発話意図・継承・一般化を分け、事実と解釈の境界を作る。

B04 舞台の内と外

考えること 字面・発話意図・受け取り

使うもの B01 本人の意図 | C13 参照枠

和訳で

観察できる事実と「字面・発話意図・受け取り」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「字面・発話意図・受け取り」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 神戸大 2024 → 神戸大 2020 → 和歌山県立医科大 2023

次へ 意図解釈から継承の意味へ

統合的解釈 B04 × B01

B05 残すこと、変えること

考えること 形の継承と意味の継承

使うもの D03 同一対象の変化 | B04 字面と意図

和訳で

観察できる事実と「形の継承と意味の継承」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「形の継承と意味の継承」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 北海道大 2023 → 九州大 2023 → 東京大 2025

次へ 意味の継承から証拠一般化へ

統合的解釈 B05 × D03

B06 試してみる

考えること 集団結果と個人への一般化

使うもの C04 相関と原因 | C03 根拠（平均）

和訳で

観察できる事実と「集団結果と個人への一般化」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「集団結果と個人への一般化」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 北海道大 2024 → 旭川医科大 2023 → 北海道大 2019

次へ 一般化から本人の選択へ

統合的解釈 B06 × C04

第 1 部の出口 → 第 1 部のまとめ → 第 2 部「受け止めと判断の根拠」

B GROUP / 第 1 部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

6 / 24 第 1 部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった 6 つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D 群 24 (p.24)、C 群 24 (p.42)

第 1 部 L01-L06 事実と意味を結ぶ	第 2 部 L07-L12 視点と受け止めを結ぶ	第 3 部 L13-L18 新しい証拠で結び直す	第 4 部 L19-L24 結びを応答へ変える
B01 観察された沈黙と本人の意図 沈黙の理由を補わない	B07 周囲の評価と本人の選択	B13 予測と起こらなかった結果	B19 制度アクセスと実利用
B02 残存証拠と欠落 残っていないものを断定しない	B08 曖昧な返答と受け手の補完	B14 計画と現在進行の再調整	B20 事実の配列と物語化
B03 経路知識と空間理解 道順と見取り図を分ける	B09 知覚とカテゴリー化	B15 設計どおりと使用可能性	B21 援助と本人の主体性
B04 字面・発話意図・受け取り 字面と意図と受け取りを分ける	B10 情報理解と感情・期待	B16 視点変更と過去評価	B22 客観時間と主観時間
B05 形の継承と意味の継承 形と意味の継承を分ける	B11 外部機能と内部の意味	B17 援助者の知識の限界	B23 観測時点と対象の現在
B06 集団結果と個人への一般化 集団の傾向を個人にしない	B12 数字の範囲と見えない時間	B18 非観測と不存在	B24 継承された基準と現在への応答

この部で加わった すでに手に入れた 薄い字 この先で加わる

この部の 6 つを、次に使うところ

もの	使う課
B01	B04 字面・発話意図・受け取り B08 曖昧な返答と受け手の補完 A07 経験の確かさと説明の正しさ
B02	B18 非観測と不存在
B03	B11 外部機能と内部の意味
B04	B05 形の継承と意味の継承 B07 周囲の評価と本人の選択 B08 曖昧な返答と受け手の補完
B05	B24 継承された基準と現在への応答 A05 贈与後の所有・支配 A20 形式と機能を保つ翻訳
B06	A13 集団確率と個人判断

第 1 部の出口

沈黙と意図、残存証拠、道順と見取り図、字面と意図、形と意味の継承、集団と個人で、事実と解釈の境界を引ける。第 2 部では、人間の受け止めを読む。

第 1 部のまとめ → 第 2 部「受け止めと判断の根拠」

B GROUP

第 2 部

L07-L12

受け止めと判断の根拠

視点と受け止めを結ぶ

和 訳

Her friends imagined she was lonely on those long nights,
but for her, the hours spent by lamplight writing letters
that tied her to faraway friends were the fullest of the year.

英 訳

友人たちは夜長を一人で過ごす彼女をさびしそうだと思っていたが、
彼女には、灯火のもとで遠くの友と自分を結ぶ手紙を書く時間が、
一年でいちばん満ち足りたひとときだった。

B GROUP / 第 2 部

受け止めと判断の根拠

視点と受け止めを結ぶ 本人の選択・曖昧な返答・カテゴリー・期待・場の意味・数量の盲点を、人間の受け止めとして読む。

B07 選ぶ人

考えること 周囲の評価と本人の選択

使うもの B04 受け取り | C09 優先順位（本人が先にしたこと）

和訳で

観察できる事実と「周囲の評価と本人の選択」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「周囲の評価と本人の選択」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 熊本大 2023 → 浜松医科大 2016 → 京都府立医科大 2018

次へ 本人の選択から曖昧返答へ

統合的解釈 B07 × B04

B08 言わなかったこと

考えること 曖昧な返答と受け手の補完

使うもの B04 発話意図 | B01 沈黙と意図

和訳で

観察できる事実と「曖昧な返答と受け手の補完」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「曖昧な返答と受け手の補完」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 神戸大 2018 → 神戸大 2023 → 神戸大 2022

次へ 補完からカテゴリー化へ

統合的解釈 B08 × B04

B09 葉の間の気配

考えること 知覚とカテゴリー化

使うもの D05 共通部分と個別差 | C20 評価基準

和訳で

観察できる事実と「知覚とカテゴリー化」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「知覚とカテゴリー化」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 熊本大 2023 → 京都府立医科大 2024 → 東北大 2014

次へ カテゴリーから期待へ

統合的解釈 B09 × D05

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

B GROUP / 第 2 部

受け止めと判断の根拠

視点と受け止めを結ぶ 本人の選択・曖昧な返答・カテゴリー・期待・場の意味・数量の盲点を、人間の受け止めとして読む。

B10 期待の置き場所

考えること **情報理解と感情・期待**

使うもの **D10** 既知・未知 | **B07** 本人の選択

和訳で

観察できる事実と「情報理解と感情・期待」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「情報理解と感情・期待」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 神戸大 2018 → 熊本大 2024 → 名古屋大 2024

次へ 期待から場の意味へ

統合的解釈 **B10 × D10**

B11 町の内側

考えること **外部機能と内部の意味**

使うもの **C10** 目的と手段（外から見た役割） | **B03** 空間の理解（町の全体像）

和訳で

観察できる事実と「外部機能と内部の意味」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「外部機能と内部の意味」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 九州大 2023 → 北海道大 2017 → 名古屋大 2024

次へ 場の意味から数量の盲点へ

統合的解釈 **B11 × C10**

B12 数から考える

考えること **数字の範囲と見えない時間**

使うもの **D09** 数量 | **C05** 根拠の信頼性

和訳で

観察できる事実と「数字の範囲と見えない時間」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「数字の範囲と見えない時間」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 滋賀医科大 2025 → 九州大 2022 → 京都府立医科大 2025

次へ 数量から予測評価へ

統合的解釈 **B12 × D09**

第 2 部の出口 → 第 2 部のまとめ → 第 3 部「判断と応答の修正」

B GROUP / 第2部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

12/24 第2部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D群 24 (p.24)、C群 24 (p.42)

第1部 L01-L06 事実と意味を結ぶ	第2部 L07-L12 視点と受け止めを結ぶ	第3部 L13-L18 新しい証拠で結び直す	第4部 L19-L24 結びを応答へ変える
B01 観察された沈黙と本人の意図 沈黙の理由を補わない	B07 周囲の評価と本人の選択 周囲の評価と本人の選択を分ける	B13 予測と起こらなかった結果	B19 制度アクセスと実利用
B02 残存証拠と欠落 残っていないものを断定しない	B08 曖昧な返答と受け手の補完 補ったのは誰かを区別する	B14 計画と現在進行の再調整	B20 事実の配列と物語化
B03 経路知識と空間理解 道順と見取り図を分ける	B09 知覚とカテゴリー化 分類の名前と性質を分ける	B15 設計どおりと使用可能性	B21 援助と本人の主体性
B04 字面・発話意図・受け取り 字面と意図と受け取りを分ける	B10 情報理解と感情・期待 理解と感情を分ける	B16 視点変更と過去評価	B22 客観時間と主観時間
B05 形の継承と意味の継承 形と意味の継承を分ける	B11 外部機能と内部の意味 役割と内側の意味を分ける	B17 援助者の知識の限界	B23 観測時点と対象の現在
B06 集団結果と個人への一般化 集団の傾向を個人にしない	B12 数字の範囲と見えない時間 数字の外側を数える	B18 非観測と不存在	B24 継承された基準と現在への応答

この部で加わった すでに手に入れた 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
B07	B10 情報理解と感情・期待 B21 援助と本人の主体性
B08	A21 問いの取り違えと応答
B09	A02 平等な配分と公平 A22 言語化と経験・分類
B10	B22 客観時間と主観時間
B11	B15 設計どおりと使用可能性 A03 公開可能性と公共性 A16 診断による説明と自己意味
B12	A04 測定可能な改善と価値

第2部の出口

本人の選択、曖昧な返答、カテゴリー、期待、場の意味、数字の外側で、受け止めの根拠を読める。第3部では、新しい証拠で読み直す。

第2部のまとめ → 第3部「判断と応答の修正」

B GROUP

第 3 部

L13-L18

判断と応答の修正

新しい証拠で結び直す

和 訳

We thought the passing showers had stripped the maples bare, but a photo a friend sent that morning showed the whole valley still glowing like brocade, so we laced up our boots and set out after all.

英 訳

時雨で紅葉はすっかり散ったと思っていたが、
友人がその朝送ってくれた写真には、
まだ錦に彩られた谷が写っていたので、
私たちは靴ひもを結び、やはり出かけることにした。

第3部の扉→課13-18→第3部のまとめ (p.56)

判断と応答の修正

新しい証拠で結び直す 予測・計画・設計・視点・援助者の知識・非観測を、現実の反応や新証拠で修正する。

B13 予測の後で

考えること **予測と起こらなかった結果**

使うもの **D17** 予測と検証 | **D18** 反実仮想

和訳で

観察できる事実と「予測と起こらなかった結果」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「予測と起こらなかった結果」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 浜松医科大 2024 → 慶應大 2021 → 東北大 2007

次へ 予測から進行中の再調整へ

統合的解釈 **B13 × D17**

B14 音を合わせる

考えること **計画と現在進行の再調整**

使うもの **B13** 予測とのずれ | **C16** 優先順位の調整

和訳で

観察できる事実と「計画と現在進行の再調整」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「計画と現在進行の再調整」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 筑波大 2017 → 筑波大 2025 → 熊本大 2015

次へ 再調整から使用可能性へ

統合的解釈 **B14 × B13**

B15 手を動かす

考えること **設計どおりと使用可能性**

使うもの **C12** 実行可能性 | **B11** 外部機能と内部の意味

和訳で

観察できる事実と「設計どおりと使用可能性」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「設計どおりと使用可能性」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 滋賀医科大 2020 → 旭川医科大 2024 → 横浜市立大 2024

次へ 使用可能性から視点変更へ

統合的解釈 **B15 × C12**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

B GROUP / 第3部

判断と応答の修正

新しい証拠で結び直す 予測・計画・設計・視点・援助者の知識・非観測を、現実の反応や新証拠で修正する。

B16 見る位置

考えること **視点変更と過去評価**

使うもの **C13** 立場・参照枠 | **B13** 結果を知った後の評価

和訳で

観察できる事実と「視点変更と過去評価」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「視点変更と過去評価」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 千葉大 2024 → 北海道大 2022 → 大阪大 2001

次へ 視点変更から援助者の限界へ

統合的解釈 **B16 × C13**

B17 霧の向こうの駅

考えること **援助者の知識の限界**

使うもの **B16** 視点 | **C05** 根拠の信頼性（知りえたこと）

和訳で

観察できる事実と「援助者の知識の限界」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「援助者の知識の限界」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 滋賀医科大 2014 → 神戸大 2022 → 神戸大 2025

次へ 知識限界から非観測へ

統合的解釈 **B17 × B16**

B18 地面の下

考えること **非観測と不存在**

使うもの **B02** 残存証拠と欠落 | **C06** 暫定的結論

和訳で

観察できる事実と「非観測と不存在」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「非観測と不存在」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 滋賀医科大 2023 → 滋賀医科大 2024 → 横浜国立大 2025

次へ 非観測から制度アクセスへ

統合的解釈 **B18 × B02**

第3部の出口 → 第3部のまとめ → 第4部「他者と時間への応答」

B GROUP / 第3部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

18 / 24 第3部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D群 24 (p.24)、C群 24 (p.42)

第1部 L01-L06 事実と意味を結ぶ	第2部 L07-L12 視点と受け止めを結ぶ	第3部 L13-L18 新しい証拠で結び直す	第4部 L19-L24 結びを応答へ変える
B01 観察された沈黙と本人の意図 沈黙の理由を補わない	B07 周囲の評価と本人の選択 周囲の評価と本人の選択を分ける	B13 予測と起こらなかった結果 予測のずれを評価する	B19 制度アクセスと実利用
B02 残存証拠と欠落 残っていないものを断定しない	B08 曖昧な返答と受け手の補完 補ったのは誰かを区別する	B14 計画と現在進行の再調整 計画の変更を失敗にしない	B20 事実の配列と物語化
B03 経路知識と空間理解 道順と見取り図を分ける	B09 知覚とカテゴリー化 分類の名前と性質を分ける	B15 設計どおりと使用可能性 設計と使われ方を分ける	B21 援助と本人の主体性
B04 字面・発話意図・受け取り 字面と意図と受け取りを分ける	B10 情報理解と感情・期待 理解と感情を分ける	B16 視点変更と過去評価 見る位置で評価が変わると知る	B22 客観時間と主観時間
B05 形の継承と意味の継承 形と意味の継承を分ける	B11 外部機能と内部の意味 役割と内側の意味を分ける	B17 援助者の知識の限界 知りえたことの限界を読む	B23 観測時点と対象の現在
B06 集団結果と個人への一般化 集団の傾向を個人にしない	B12 数字の範囲と見えない時間 数字の外側を数える	B18 非観測と不存在 見つからないと無いを分ける	B24 継承された基準と現在への応答

この部で加わった すでに手に入れた 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
B13	B14 計画と現在進行の再調整 B16 視点変更と過去評価
B14	B24 継承された基準と現在への応答
B15	B19 制度アクセスと実利用
B16	B17 援助者の知識の限界 B20 事実の配列と物語化 A11 後知恵と当時の可能性
B17	B21 援助と本人の主体性 A12 不完全な理解下の責任
B18	B23 観測時点と対象の現在 A01 記録の欠落と不存在

第3部の出口

予測、計画、設計、視点、援助者の限界、非観測を、現実の反応や新しい証拠で修正できる。第4部では、他者と時間への応答へ進む。

第3部のまとめ → 第4部「他者と時間への応答」

B GROUP

第 4 部

L19-L24

他者と時間への応答

結びを応答へ変える

和 訳

As the year drew to a close, she tied the decorative cords
for the New Year the way her grandmother had taught
her, but she let the youngest children choose the colors.

英 訳

年の瀬、彼女は祖母に教わったとおりに
正月飾りの水引を結んだが、
色は小さな子どもたちに選ばせた。

第4部の扉→課19-24→第4部のまとめ(p.60)

他者と時間への応答

結びを応答へ変える 制度アクセス・物語化・援助・時間経験・観測時点・継承を統合し、現在の他者への応答へ進む。

B19 窓口の向こう

考えること **制度アクセスと実利用**

使うもの **B15** 設計と使用可能性 | **C07** 成立・継続条件

和訳で

観察できる事実と「制度アクセスと実利用」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「制度アクセスと実利用」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 東北大 2024 → 浜松医科大 2022 → 横浜市立大 2019

次へ アクセスから物語化へ

統合的解釈 **B19 × B15**

B20 物語の仕掛け

考えること **事実の配列と物語化**

使うもの **D20** 連鎖効果 | **B16** 視点変更

和訳で

観察できる事実と「事実の配列と物語化」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「事実の配列と物語化」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 九州大 2019 → 和歌山県立医科大 2021 → 名古屋大 2016

次へ 物語化から援助の主体性へ

統合的解釈 **B20 × D20**

B21 助けのかたち

考えること **援助と本人の主体性**

使うもの **B17** 援助者の限界 | **B07** 本人の選択

和訳で

観察できる事実と「援助と本人の主体性」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「援助と本人の主体性」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 京都大 2018 → 浜松医科大 2025 → 名古屋大 2021

次へ 主体性から時間経験へ

統合的解釈 **B21 × B17**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

B GROUP / 第 4 部

他者と時間への応答

結びを応答へ変える 制度アクセス・物語化・援助・時間経験・観測時点・継承を統合し、現在の他者への応答へ進む。

B22 待つということ

考えること **客観時間と主観時間**

使うもの **D02** 基準時 | **B10** 感情・期待

和訳で

観察できる事実と「客観時間と主観時間」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「客観時間と主観時間」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 熊本大 2015 → 京都府立医科大 2025 → 九州大 2024

次へ 時間経験から観測時点へ

統合的解釈 **B22 × D02**

B23 遠くを見る

考えること **観測時点と対象の現在**

使うもの **D16** 先行・同時進行 | **B18** 非観測

和訳で

観察できる事実と「観測時点と対象の現在」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「観測時点と対象の現在」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 筑波大 2022 → 熊本大 2010 → 筑波大 2009

次へ 観測時点から継承と応答へ

統合的解釈 **B23 × D16**

B24 実りのあとに

考えること **継承された基準と現在への応答**

使うもの **B05** 形と意味の継承 | **B14** 再調整（進みながら直す） | **B21** 主体性

和訳で

観察できる事実と「継承された基準と現在への応答」に関わる解釈を分け、視点や含意を保って読む。

英訳で

事実を強めすぎず、立場・限定・含意を英語で表す。

長文で

複数の人物・証拠・発言を照合し、「継承された基準と現在への応答」がどこで生まれるかを読む。

使用する長文 神戸大 2025 → 大阪大 2014 → 熊本大 2018

次へ A01で「人間の意味」から「記録・真理の前提」へ

統合的解釈 **B24 × B05**

第 4 部の出口 → 第 4 部のまとめ → A群 / Concept

B GROUP / 第4部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

24 / 24 第4部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。この群の24がそろいました。前の群までの分：D群24（p.24）、C群24（p.42）

第1部 L01-L06 事実と意味を結ぶ	第2部 L07-L12 視点と受け止めを結ぶ	第3部 L13-L18 新しい証拠で結び直す	第4部 L19-L24 結びを応答へ変える
B01 観察された沈黙と本人の意図 沈黙の理由を補わない	B07 周囲の評価と本人の選択 周囲の評価と本人の選択を分ける	B13 予測と起こらなかった結果 予測のずれを評価する	B19 制度アクセスと実利用 使えると使われるを分ける
B02 残存証拠と欠落 残っていないものを断定しない	B08 曖昧な返答と受け手の補完 補ったのは誰かを区別する	B14 計画と現在進行の再調整 計画の変更を失敗にしない	B20 事実の配列と物語化 語りの順序と事実を分ける
B03 経路知識と空間理解 道順と見取り図を分ける	B09 知覚とカテゴリー化 分類の名前と性質を分ける	B15 設計どおりと使用可能性 設計と使われ方を分ける	B21 援助と本人の主体性 援助が主体性を広げたかを読む
B04 字面・発話意図・受け取り 字面と意図と受け取りを分ける	B10 情報理解と感情・期待 理解と感情を分ける	B16 視点変更と過去評価 見る位置で評価が変わると知る	B22 客観時間と主観時間 時計の時間と感じた時間を分ける
B05 形の継承と意味の継承 形と意味の継承を分ける	B11 外部機能と内部の意味 役割と内側の意味を分ける	B17 援助者の知識の限界 知りえたことの限界を読む	B23 観測時点と対象の現在 いつの姿かを確かめる
B06 集団結果と個人への一般化 集団の傾向を個人にしない	B12 数字の範囲と見えない時間 数字の外側を数える	B18 非観測と不存在 見つからないと無いを分ける	B24 継承された基準と現在への応答 受け継いだ基準を今に照らす

 この部で加わった  すでに手に入れた  薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
B19	A15 同意・撤回・信頼
B20	A10 時間をまたぐ自己と責任
B21	B24 継承された基準と現在への応答 A09 支援技術と選択目的
B22	A18 成果で測れないケア価値
B23	A01 記録の欠落と不存在
B24	A12 不完全な理解下の責任

第4部の出口

制度アクセス、物語化、援助、時間の経験、観測時点、継承を統合し、いまの他者への応答として読める。A群では、この受け止めの前提にある概念へ進む。

第4部のまとめ→A群/Concept

冬 / 織り成す

A GROUP

CONCEPT

概念 - 概念を織り上げる

中心の問い

その判断は、どんな定義・前提・価値・根拠に立っているのか。

複数の結びを、定義・前提・価値・反論・論証として織り上げる。

対応する大学 東京大・京都大・大阪大・一橋大・早稲田大・慶應大・和歌山県立医科大学・京都府立医科大学	入る前に=B 群の出口 事実・視点・含意を分け、相手や文脈に応じた意味を根拠付きで再構成できる。	この群を終えると 概念・前提・論理・価値判断を壊さず、別の言語で再構築し、初見の議論へ応用できる。
--	--	---

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます（p.66、70、74、78）。

第1部 記録と制度 概念の糸を取る	第2部 認識と自己 自己と認識を織る	第3部 医療と規範 規範と価値を織る	第4部 言葉と真理 言葉と真理を織り成す
---	--	--	--

CONCEPT

A 群の見取り図

24Lesson を 4 部に分け、概念を織り上げる力を段階的に育てます。

第 1 部 L01-L06 記録と制度 概念の糸を取る 記録・公平・公共性・進歩・所有・普遍性を通して、制度や判断の背後にある定義と基準を問う。 A01 記録と歴史 A02 公平と制度 A03 責任と公共性 A04 進歩と喪失 A05 贈与と所有 A06 普遍性と差異 まとめ：p.66	第 2 部 L07-L12 認識と自己 自己と認識を織る 知覚・不確実性・技術と自由・自己同一性・時間・他者責任を、認識の限界と選択の問題として読む。 A07 知覚と記憶 A08 知識と不確実性 A09 自由と技術 A10 人格の同一性 A11 時間と可能性 A12 他者への責任 まとめ：p.70
第 3 部 L13-L18 医療と規範 規範と価値を織る 確率・回復・同意・病いと自己・正常性・ケアを通して、測定と価値、本人と規範の関係を問う。 A13 確率と判断 A14 患者と回復 A15 同意と信頼 A16 病いと自己 A17 正常性と規範 A18 有限性とケア まとめ：p.74	第 4 部 L19-L24 言葉と真理 言葉と真理を織り成す 書く・翻訳・対話・言語・解釈・訂正を通して、言葉が論証と真理にどう関わるかを最終統合する。 A19 書くことと考えること A20 翻訳と比喻 A21 対話と他者 A22 言語と思考 A23 意味と解釈 A24 言葉と真理 まとめ：p.78

長文演習の基本

3 題：概念を広げる → 別の論証で確かめる → 指示なしに論証を統合

積み上げ

各部の終わりに「ここまでで手に入れたもの」を置き、6 → 12 → 18 → 24 と増えていきます。

A GROUP

第 1 部

L01-L06

記録と制度

概念の糸を取る

和 訳

Only official events go into the village office's records, so the first red dawn that everyone climbed the hill together to see appears nowhere in them, yet no one who was there has forgotten the colors that morning's light wove across the snow.

英 訳

村の役場の記録には公式の行事しか載らないので、皆で丘に登って見た初茜のことはどこにも書かれていないが、その場にいた誰もが、あの朝の光が雪に織り成した色を覚えている。

第1部の扉 → 課 01-06 → 第1部のまとめ (p.66)

記録と制度

概念の糸を取る 記録・公平・公共性・進歩・所有・普遍性を通して、制度や判断の背後にある定義と基準を問う。

A01 記録と歴史

考えること **記録の欠落と不存在**

使うもの **B18** 非観測と不存在 | **B23** 観測時点と現在（記録はいつの姿か）

和訳で

概念・前提としての「記録の欠落と不存在」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「記録の欠落と不存在」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 京都大 2011 → 新潟大 2020 → 早稲田大 2020

次へ 公平の定義へ

論証の統合 **A01 × B18**

A02 公平と制度

考えること **平等な配分と公平**

使うもの **C20** 評価基準 | **B09** カテゴリー化（何を同じとみなすか）

和訳で

概念・前提としての「平等な配分と公平」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「平等な配分と公平」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 東北大 2024 → 早稲田大 2020 → 東京大 2020

次へ 公共性・責任へ

論証の統合 **A02 × C20**

A03 責任と公共性

考えること **公開可能性と公共性**

使うもの **A02** 公平の定義 | **B11** 外部機能と内部の意味

和訳で

概念・前提としての「公開可能性と公共性」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「公開可能性と公共性」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 慶應大 2020 → 京都府立医科大 2020 → 早稲田大 2021

次へ 進歩の価値評価へ

論証の統合 **A03 × A02**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

記録と制度

概念の糸を取る 記録・公平・公共性・進歩・所有・普遍性を通して、制度や判断の背後にある定義と基準を問う。

A04 進歩と喪失 考えること 測定可能な改善と価値 使うもの B12 数字の範囲 C17 トレードオフ	
和訳で 概念・前提としての「測定可能な改善と価値」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。 英訳で 定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。	長文で 「測定可能な改善と価値」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。
使用する長文 京都大 2017 → 早稲田大 2021 → 大阪大 2025 次へ 所有と権利へ	
論証の統合 A04 × B12	

A05 贈与と所有 考えること 贈与後の所有・支配 使うもの B05 形の継承と意味の継承 D03 受け渡し	
和訳で 概念・前提としての「贈与後の所有・支配」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。 英訳で 定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。	長文で 「贈与後の所有・支配」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。
使用する長文 京都大 2022 → 東北大 2007 → 慶應大 2013 次へ 普遍基準の限界へ	
論証の統合 A05 × B05	

A06 普遍性と差異 考えること 普遍基準と差異 使うもの C21 共通基準による比較 A02 公平	
和訳で 概念・前提としての「普遍基準と差異」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。 英訳で 定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。	長文で 「普遍基準と差異」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。
使用する長文 大阪医科大 2014 → 大阪医科大 2015 → 早稲田大 2022 次へ 知覚・認識の確実性へ	
論証の統合 A06 × C21	

第 1 部の出口 → 第 1 部のまとめ → 第 2 部「認識と自己」

A GROUP / 第 1 部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

6 / 24 第 1 部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった 6 つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D 群 24 (p.24)、C 群 24 (p.42)、B 群 24 (p.60)

第 1 部 L01-L06 概念の糸を取る	第 2 部 L07-L12 自己と認識を織る	第 3 部 L13-L18 規範と価値を織る	第 4 部 L19-L24 言葉と真理を織り成す
A01 記録の欠落と不存在 記録の欠落を不在にしない	A07 経験の確かさと説明の正しさ	A13 集団確率と個人判断	A19 発見と正当化・書くこと
A02 平等な配分と公平 公平の中身を特定する	A08 同一証拠に適合する複数説明	A14 測定指標と本人の回復目標	A20 形式と機能を保つ翻訳
A03 公開可能性と公共性 公開と公益を分ける	A09 支援技術と選択目的	A15 同意・撤回・信頼	A21 問いの取り違えと応答
A04 測定可能な改善と価値 測れる改善と価値を分ける	A10 時間をまたぐ自己と責任	A16 診断による説明と自己意味	A22 言語化と経験・分類
A05 贈与後の所有・支配 贈与の後に残るものを読む	A11 後知恵と当時の可能性	A17 正常・自然・望ましさ	A23 複数解釈と根拠による制約
A06 普遍基準と差異 普遍と相対を使い分ける	A12 不完全な理解下の責任	A18 成果で測れないケア価値	A24 主張・根拠・限定・訂正

☒ この部で加わった ☐すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の 6 つを、次に使うところ

もの	使う課
A01	A23 複数解釈と根拠による制約
A02	A03 公開可能性と公共性 A06 普遍基準と差異
A03	A15 同意・撤回・信頼
A04	A14 測定指標と本人の回復目標
A05	A18 成果で測れないケア価値
A06	A17 正常・自然・望ましさ

第 1 部の出口

記録、公平、公共性、進歩、所有、普遍性を通して、制度や判断の背後にある定義と基準を問える。第 2 部では、認識と自己の限界へ進む。

第 1 部のまとめ → 第 2 部「認識と自己」

A GROUP

第 2 部

L07-L12

認識と自己

自己と認識を織る

和 訳

The patterns of light woven by the snow lanterns
my father and I built on snow-lit nights come back
to me as clearly as if I had seen them yesterday,
though a clear memory is not always an accurate one.

英 訳

雪明かりの夜に父と作った雪灯籠の灯が織り成した模様は、
昨日見たかのようにはっきりよみがえるが、
はっきりした記憶がいつも正確な記憶だとは限らない。

認識と自己

自己と認識を織る 知覚・不確実性・技術と自由・自己同一性・時間・他者責任を、認識の限界と選択の問題として読む。

A07 知覚と記憶

考えること **経験の確かさと説明の正しさ**

使うもの **B01** 観察と本人の意図 | **C05** 根拠の信頼性

和訳で

概念・前提としての「経験の確かさと説明の正しさ」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「経験の確かさと説明の正しさ」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 京都府立医科大 2024 → 大阪医科大 2012 → 東京大 2018

次へ 複数説明の不確実性へ

論証の統合 **A07 × B01**

A08 知識と不確実性

考えること **同一証拠に適合する複数説明**

使うもの **C24** 不確実性を残した判断 | **A07** 説明の正しさ

和訳で

概念・前提としての「同一証拠に適合する複数説明」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「同一証拠に適合する複数説明」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 大阪医科大 2017 → 東北大 2020 → 和歌山県立医科大 2025

次へ 技術が選択に与える作用へ

論証の統合 **A08 × C24**

A09 自由と技術

考えること **支援技術と選択目的**

使うもの **C10** 目的と手段 | **B21** 主体性

和訳で

概念・前提としての「支援技術と選択目的」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「支援技術と選択目的」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 大阪医科大 2016 → 大阪医科大 2017 → 九州大 2025

次へ 時間をまたぐ自己へ

論証の統合 **A09 × C10**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

認識と自己

自己と認識を織る 知覚・不確実性・技術と自由・自己同一性・時間・他者責任を、認識の限界と選択の問題として読む。

A10 人格の同一性

考えること **時間をまたぐ自己と責任**

使うもの **B20** 物語化（自分の物語として語る） | **A07** 経験の確かさ

和訳で

概念・前提としての「時間をまたぐ自己と責任」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「時間をまたぐ自己と責任」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 東北大 2014 → 京都大 2010 → 京都大 2009

次へ 過去の選択肢の評価へ

論証の統合 **A10 × B20**

A11 時間と可能性

考えること **後知恵と当時の可能性**

使うもの **B16** 視点変更と過去評価 | **D18** 反実仮想

和訳で

概念・前提としての「後知恵と当時の可能性」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「後知恵と当時の可能性」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 京都大 2017 → 慶應大 2018 → 慶應大 2019

次へ 他者への責任へ

論証の統合 **A11 × B16**

A12 他者への責任

考えること **不完全な理解下の責任**

使うもの **B17** 援助者の知識の限界 | **B24** 現在の他者への応答 | **A10** 時間をまたぐ責任

和訳で

概念・前提としての「不完全な理解下の責任」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「不完全な理解下の責任」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 京都大 2018 → 和歌山県立医科大 2020 → 一橋大 2015

次へ 確率判断へ

論証の統合 **A12 × B17**

第 2 部の出口 → 第 2 部のまとめ → 第 3 部「医療と規範」

A GROUP / 第2部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

12/24 第2部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D群24 (p.24)、C群24 (p.42)、B群24 (p.60)

第1部 L01-L06 概念の糸を取る	第2部 L07-L12 自己と認識を織る	第3部 L13-L18 規範と価値を織る	第4部 L19-L24 言葉と真理を織り成す
A01 記録の欠落と不存在 記録の欠落を不在にしない	A07 経験の確かさと説明の正しさ 経験の確かさと説明の正しさを分ける	A13 集団確率と個人判断	A19 発見と正当化・書くこと
A02 平等な配分と公平 公平の中身を特定する	A08 同一証拠に適合する複数説明 矛盾しないと証明されたを分ける	A14 測定指標と本人の回復目標	A20 形式と機能を保つ翻訳
A03 公開可能性と公共性 公開と公益を分ける	A09 支援技術と選択目的 助ける技術と方向づける技術を分ける	A15 同意・撤回・信頼	A21 問いの取り違えと応答
A04 測定可能な改善と価値 測れる改善と価値を分ける	A10 時間をまたぐ自己と責任 同じ人物の条件を問う	A16 診断による説明と自己意味	A22 言語化と経験・分類
A05 贈与後の所有・支配 贈与の後に残るものを読む	A11 後知恵と当時の可能性 後知恵で当時を裁かない	A17 正常・自然・望ましさ	A23 複数解釈と根拠による制約
A06 普遍基準と差異 普遍と相対を使い分ける	A12 不完全な理解下の責任 理解できなくても応える	A18 成果で測れないケア価値	A24 主張・根拠・限定・訂正

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
A07	A08 同一証拠に適合する複数説明 A10 時間をまたぐ自己と責任 A16 診断による説明と自己意味
A08	A19 発見と正当化・書くこと A23 複数解釈と根拠による制約
A09	A15 同意・撤回・信頼
A10	A12 不完全な理解下の責任
A11	A24 主張・根拠・限定・訂正
A12	A21 問いの取り違えと応答

第2部の出口

知覚、不確実性、技術と自由、自己同一性、時間、他者への責任を、認識の限界と選択の問題として読める。第3部では、規範と価値を問う。

第2部のまとめ → 第3部「医療と規範」

A GROUP

第 3 部

L13-L18

医療と規範

規範と価値を織る

和 訳

The test results showed he was only halfway to recovery, but for him, walking with his granddaughter through a scene woven of fragrant plum blossoms and the last of the snow meant he was already well again.

英 訳

検査の結果では回復はまだ半ばだったが、彼にとっては、
孫と一緒に、梅が香と名残の雪が織り成す景色の中を歩けたことが、
もう元気になったしるしだった。

第3部の扉→課13-18→第3部のまとめ (p.74)

医療と規範

規範と価値を織る 確率・回復・同意・病いと自己・正常性・ケアを通して、測定と価値、本人と規範の関係を問う。

A13 確率と判断

考えること **集団確率と個人判断**

使うもの **B06** 集団と個人への一般化 | **C11** リスク

和訳で

概念・前提としての「集団確率と個人判断」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「集団確率と個人判断」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 慶應大 2013 → 京都府立医科大 2021 → 慶應大 2013

次へ 本人にとっての回復へ

論証の統合 **A13 × B06**

A14 患者と回復

考えること **測定指標と本人の回復目標**

使うもの **A04** 測定と価値 | **A13** 集団の確率と個人

和訳で

概念・前提としての「測定指標と本人の回復目標」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「測定指標と本人の回復目標」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 東京大 2015 → 京都府立医科大 2018 → 慶應大 2019

次へ 同意と信頼へ

論証の統合 **A14 × A04**

A15 同意と信頼

考えること **同意・撤回・信頼**

使うもの **B19** 制度と実利用 | **A03** 公共性（制度への信頼） | **A09** 選択

和訳で

概念・前提としての「同意・撤回・信頼」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「同意・撤回・信頼」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 慶應大 2016 → 慶應大 2015 → 慶應大 2013

次へ 診断と自己意味へ

論証の統合 **A15 × B19**

前半 3Lesson → 後半 3Lesson へ

医療と規範

規範と価値を織る 確率・回復・同意・病いと自己・正常性・ケアを通して、測定と価値、本人と規範の関係を問う。

A16 病いと自己

考えること **診断による説明と自己意味**

使うもの **B11** 外部機能と内部の意味 | **A07** 説明の正しさ | **A15** 同意と信頼

和訳で

概念・前提としての「診断による説明と自己意味」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「診断による説明と自己意味」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 東京大 2025 → 慶應大 2020 → 和歌山県立医科大 2019

次へ 正常性・規範へ

論証の統合 **A16 × B11**

A17 正常性と規範

考えること **正常・自然・望ましさ**

使うもの **A06** 普遍基準と差異 | **A16** 診断による説明（何を正常とみなすか）

和訳で

概念・前提としての「正常・自然・望ましさ」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「正常・自然・望ましさ」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 慶應大 2019 → 慶應大 2013 → 早稲田大 2022

次へ 成果を越えるケア価値へ

論証の統合 **A17 × A06**

A18 有限性とケア

考えること **成果で測れないケア価値**

使うもの **A14** 測定指標と本人の回復 | **B22** 主観時間（本人が感じる時間） | **A05** 贈与（見返りのない受け渡し）

和訳で

概念・前提としての「成果で測れないケア価値」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「成果で測れないケア価値」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 筑波大 2021 → 大阪医科大 2013 → 大阪医科大 2019

次へ 書くことによる正当化へ

論証の統合 **A18 × A14**

第3部の出口 → 第3部のまとめ → 第4部「言葉と真理」

A GROUP / 第3部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

18 / 24 第3部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。薄い字の欄が、この先で加わるものです。前の群までの分：D群 24 (p.24)、C群 24 (p.42)、B群 24 (p.60)

第1部 L01-L06 概念の糸を取る	第2部 L07-L12 自己と認識を織る	第3部 L13-L18 規範と価値を織る	第4部 L19-L24 言葉と真理を織り成す
A01 記録の欠落と不存在 記録の欠落を不在にしない	A07 経験の確かさと説明の正しさ 経験の確かさと説明の正しさを分ける	A13 集団確率と個人判断 集団の確率を個人の予言にしない	A19 発見と正当化・書くこと
A02 平等な配分と公平 公平の中身を特定する	A08 同一証拠に適合する複数説明 矛盾しないと証明されたを分ける	A14 測定指標と本人の回復目標 指標の回復と本人の回復を分ける	A20 形式と機能を保つ翻訳
A03 公開可能性と公共性 公開と公益を分ける	A09 支援技術と選択目的 助ける技術と方向づける技術を分ける	A15 同意・撤回・信頼 同意の条件と撤回を読む	A21 問いの取り違えと応答
A04 測定可能な改善と価値 測れる改善と価値を分ける	A10 時間をまたぐ自己と責任 同じ人物の条件を問う	A16 診断による説明と自己意味 病気と病いを分ける	A22 言語化と経験・分類
A05 贈与後の所有・支配 贈与の後に残るものを読む	A11 後知恵と当時の可能性 後知恵で当時を裁かない	A17 正常・自然・望ましさ 多数と自然と望ましさを分ける	A23 複数解釈と根拠による制約
A06 普遍基準と差異 普遍と相対を使い分ける	A12 不完全な理解下の責任 理解できなくても応える	A18 成果で測れないケア価値 治せなくてもできることを読む	A24 主張・根拠・限定・訂正

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
A13	A14 測定指標と本人の回復目標
A14	A18 成果で測れないケア価値
A15	A16 診断による説明と自己意味
A16	A17 正常・自然・望ましさ
A17	A22 言語化と経験・分類
A18	(初見の英文で使う)

第3部の出口

確率、回復、同意、病いと自己、正常性、ケアを通して、測定と価値、本人と規範の関係を問える。第4部では、言葉と真理へ進む。

第3部のまとめ → 第4部「言葉と真理」

A GROUP

第 4 部

L19-L24

言葉と真理

言葉と真理を織り成す

和 訳

Just before graduation, as the cherry buds swelled with pale pink, she rewrote the letter she had written to her classmates on her first day, not to take back what she had said but to say more precisely what three years had woven in her heart.

英 訳

卒業を前に、桜のつぼみが薄紅にふくらむころ、
彼女は入学の日に級友へ宛てた手紙を書き直したが、
それは前の言葉を取り消すためではなく、
三年間が心に織り成したものを、より正確に言い表すためだった。

第4部の扉→課19-24→第4部のまとめ (p.78)

言葉と真理

言葉と真理を織り成す 書く・翻訳・対話・言語・解釈・訂正を通して、言葉が論証と真理にどう関わるかを最終統合する。

A19 書くことと考えること

考えること 発見と正当化・書くこと

使うもの C23 判断の正当化 | A08 複数説明

和訳で

概念・前提としての「発見と正当化・書くこと」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「発見と正当化・書くこと」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 大阪医科大 2014 → 大阪公立大 2024 → 慶應大 2024

次へ 翻訳で何を保つかへ

論証の統合 A19 × C23

A20 翻訳と比喻

考えること 形式と機能を保つ翻訳

使うもの B05 形の継承と意味の継承 | D24 骨格の総合

和訳で

概念・前提としての「形式と機能を保つ翻訳」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「形式と機能を保つ翻訳」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 慶應大 2020 → 慶應大 2019 → 早稲田大 2022

次へ 対話で問いを共有するへ

論証の統合 A20 × B05

A21 対話と他者

考えること 問いの取り違えと応答

使うもの B08 曖昧な返答と補完 | A20 形式と機能（同じ働きの言葉を選ぶ） | A12 応える責任

和訳で

概念・前提としての「問いの取り違えと応答」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「問いの取り違えと応答」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 早稲田大 2020 → 早稲田大 2021 → 早稲田大 2020

次へ 言語と思考の相互作用へ

論証の統合 A21 × B08

前半3Lesson → 後半3Lesson へ

言葉と真理

言葉と真理を織り成す 書く・翻訳・対話・言語・解釈・訂正を通して、言葉が論証と真理にどう関わるかを最終統合する。

A22 言語と思考

考えること 言語化と経験・分類

使うもの B09 知覚とカテゴリー化 | A19 書くことで考えが生まれる | A17 正常・自然（分類の価値判断）

和訳で

概念・前提としての「言語化と経験・分類」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「言語化と経験・分類」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 名古屋大 2025 → 京都大 2024 → 早稲田大 2022

次へ 複数解釈の評価へ

論証の統合 A22 × B09

A23 意味と解釈

考えること 複数解釈と根拠による制約

使うもの A08 同一証拠と複数説明 | A01 記録の欠落（書かれていないもの） | A22 言語化（言葉が区切るもの）

和訳で

概念・前提としての「複数解釈と根拠による制約」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「複数解釈と根拠による制約」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 名古屋大 2016 → 京都大 2002 → 早稲田大 2022

次へ 真理・説明責任へ

論証の統合 A23 × A08

A24 言葉と真理

考えること 主張・根拠・限定・訂正

使うもの A23 根拠による制約 | A21 問いへの応答 | A11 後知恵と訂正

和訳で

概念・前提としての「主張・根拠・限定・訂正」を論証の中で捉え、反例や限定を加えて読み直す。

英訳で

定義・前提・限定を壊さず、考えを密度の高い英文へ組み直す。

長文で

「主張・根拠・限定・訂正」を別の論証へ広げ、最後は指示なしに同じ思考を使って論証全体を読む。

使用する長文 大阪大 2023 → 東京大 2016 → 早稲田大 2022

次へ 初見英文へ持ち出す

論証の統合 A24 × A23

第4部の出口 → 第4部のまとめ → 学びの出口

A GROUP / 第4部のまとめ

ここまでで手に入れたもの

24 / 24 第4部を終えて。色の付いた欄が、この部で加わった6つです。この群の24がそろいました。前の群までの分：D群24（p.24）、C群24（p.42）、B群24（p.60）

第1部 L01-L06 概念の糸を取る	第2部 L07-L12 自己と認識を織る	第3部 L13-L18 規範と価値を織る	第4部 L19-L24 言葉と真理を織り成す
A01 記録の欠落と不存在 記録の欠落を不在にしない	A07 経験の確かさと説明の正しさ 経験の確かさと説明の正しさを分ける	A13 集団確率と個人判断 集団の確率を個人の予言にしない	A19 発見と正当化・書くこと 発見と正当化を分ける
A02 平等な配分と公平 公平の中身を特定する	A08 同一証拠に適合する複数説明 矛盾しないと証明されたを分ける	A14 測定指標と本人の回復目標 指標の回復と本人の回復を分ける	A20 形式と機能を保つ翻訳 形か働きかを決めて訳す
A03 公開可能性と公共性 公開と公益を分ける	A09 支援技術と選択目的 助ける技術と方向づける技術を分ける	A15 同意・撤回・信頼 同意の条件と撤回を読む	A21 問いの取り違えと応答 どの問いへの答えかを確かめる
A04 測定可能な改善と価値 測れる改善と価値を分ける	A10 時間をまたぐ自己と責任 同じ人物の条件を問う	A16 診断による説明と自己意味 病気と病いを分ける	A22 言語化と経験・分類 言葉が区切るものを読む
A05 贈与後の所有・支配 贈与の後に残るものを読む	A11 後知恵と当時の可能性 後知恵で当時を裁かない	A17 正常・自然・望ましさ 多数と自然と望ましさを分ける	A23 複数解釈と根拠による制約 解釈を根拠で絞る
A06 普遍基準と差異 普遍と相対を使い分ける	A12 不完全な理解下の責任 理解できなくても応える	A18 成果で測れないケア価値 治せなくてもできることを読む	A24 主張・根拠・限定・訂正 主張を限定し、訂正する

☒ この部で加わった ☐ すでに手に入れた ☐ 薄い字 この先で加わる

この部の6つを、次に使うところ

もの	使う課
A19	A22 言語化と経験・分類
A20	A21 問いの取り違えと応答
A21	A24 主張・根拠・限定・訂正
A22	A23 複数解釈と根拠による制約
A23	A24 主張・根拠・限定・訂正
A24	（初見の英文で使う）

第4部の出口

書く、翻訳、対話、言語、解釈、訂正を通して、言葉が論証と真理にどう関わるかを統合できる。ここから先は、初見の英文へ。

第4部のまとめ → 学びの出口

BEYOND A24

学びの出口

A24 で終わるのは、教材の順序です。

思考の順序は、次に出会う初見英文へ続きます。

梵	文の核を捉える。
交差	情報の関係を見つける。
結び	事実と視点を結び、意味を読む。
織り成す	概念・前提・論証を織り上げる。

「思考と統合」が目指すのは、答え方を覚えることではありません。

文章に応じて、自分で問いを立て、必要な読み方を選び、根拠を保ったまま考えを言葉にすることです。

96 の Lesson で手に入れたものは、各群の第 4 部のまとめ (p.24、p.42、p.60、p.78) にそろっています。

初見の英文で迷ったときは、そこに戻ってください。

梵 → 交差 → 結び → 織り成す

そして、初見の文章へ。



思考と統合

D → C → B → A

大学入試対策総合英語

英語塾 GRIT

Institute of Academic English